

CLUSTERPRO[®] X SingleServerSafe 3.1 **for Windows**

操作ガイド

2013.10.31
第9版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2011/10/11	新規作成
2	2011/11/30	内部バージョン 11.11 に対応
3	2012/3/31	内部バージョン 11.13 に対応
4	2012/6/30	内部バージョン 11.14 に対応
5	2012/9/30	内部バージョン 11.15 に対応
6	2012/12/10	内部バージョン 11.17 に対応
7	2013/4/1	内部バージョン 11.18 に対応
8	2013/7/12	内部バージョン 11.19 に対応
9	2013/10/31	内部バージョン 11.1a に対応

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の 米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

Androidは、Google, Inc.の商標または登録商標です。

F5、F5 Networks、BIG-IP、およびiControl は、米国および他の国におけるF5 Networks, Inc. の商標または登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに.....	vii
対象読者と目的.....	vii
本書の構成.....	vii
本書で記述される用語.....	viii
CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系.....	ix
本書の表記規則.....	x
最新情報の入手先.....	xi
セクション I マネージャ操作リファレンス.....	13
第 1 章 WebManager の機能.....	15
WebManager を起動する.....	16
WebManager とは.....	16
WebManager を起動するには.....	17
WebManager の画面.....	18
WebManager のメイン画面.....	18
WebManager の動作モードを切り替えるには.....	20
WebManager でアラートの検索を行うには.....	21
WebManager を使用してログを収集するには.....	22
WebManager の情報を最新に更新するには.....	24
WebManager の画面レイアウトを変更するには.....	24
WebManager から時刻情報を確認するには.....	25
WebManager から統合マネージャを起動するには.....	27
WebManager からサービスの操作を行うには.....	27
WebManager からライセンスを確認するには.....	27
WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには.....	29
WebManager から実行できる操作.....	29
WebManager のリストビューで状態を確認する.....	39
WebManager のリストビューで全体の詳細情報をリスト表示するには.....	39
WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには.....	43
WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには.....	43
WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには.....	44
WebManager でアラートを確認する.....	45
アラートビューの各フィールドについて.....	45
アラートビューの操作.....	46
WebManager を手動で停止/開始する.....	48
WebManager を利用したくない場合.....	48
WebManager の接続制限、操作制限を設定する.....	48
使用制限の種類.....	48
セクション II コマンドリファレンス.....	51
第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス.....	53
コマンドラインから操作する.....	54
コマンド一覧.....	54
状態を表示する (clpstat コマンド).....	56
サービスを操作する (clpcl コマンド).....	59
サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド).....	63
グループを操作する (clpgrp コマンド).....	64
ログを収集する (clplogcc コマンド).....	67

タイプを指定したログの収集 (-t オプション).....	68
ログファイルの出力先 (-o オプション).....	70
緊急OSシャットダウン時の情報採取.....	70
構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド).....	72
構成情報を反映する (clpcfctrl --push).....	72
構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull).....	76
タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド).....	78
ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド).....	81
メッセージを出力する (clplogcmd コマンド).....	89
モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド).....	91
グループリソースを制御する (clprscコマンド).....	95
CPUクロックを制御する (clpcpufreq コマンド).....	97
クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド).....	99
再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド).....	103
リソース使用量を予測する (clpprerコマンド).....	105
セクション III リリースノート.....	109
第 3 章 注意制限事項.....	111
システム運用後.....	112
回復動作中の操作制限.....	112
コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて.....	112
CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて.....	112
Windows Server 2008 環境におけるユーザーアカウント制御の影響について.....	112
Windows Server 2008 環境におけるアプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について.....	113
ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について.....	114
CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて.....	114
CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について.....	114
JVM 監視リソースについて.....	114
システム監視リソースについて.....	115
WebManagerについて.....	116
第 4 章 エラーメッセージ一覧.....	119
イベントログ、アラートメッセージ.....	120
付録.....	123
付録 A 索引.....	125

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO[®] X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。構成は、セクション I からセクション III までの3部に分かれています。

本書の構成

セクション I マネージャ操作リファレンス

第 1 章 「WebManager の機能」: WebMangerの使用方法および関連情報について説明します。

セクション II コマンドリファレンス

第 2 章 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」: CLUSTERPRO X SingleServerSafeで使用可能なコマンドについて説明します。

セクション III リリース ノート

第 3 章 「注意制限事項」: 既知の問題と制限事項について説明します。

第 4 章 「エラーメッセージ一覧」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

付録

付録 A 「索引」

本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

用語	説明
クラスタ、クラスタシステム	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム
クラスタシャットダウン/リブート	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート
クラスタリソース	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース
クラスタオブジェクト	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト
フェイルオーバーグループ	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース(アプリケーション、サービスなど)をまとめたグループ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストールガイド』 (Installation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』 (Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』 (Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』 (Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

『CLUSTERPRO X WebManager Mobile 管理者ガイド』 (WebManager Mobile Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO WebManager Mobile で管理するシステム管理者、および WebManager Mobile の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、WebManager Mobile を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注：は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要：は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報：は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語（ダイアログ ボックス、メニューなど）の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン 中の [] 角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能 であることを示します。	clpstat -s[-h <i>host_name</i>]
モノスペース フ ォ ン ト (courier)	パス名、コマンド ライン、システム からの出力（メッセージ、プロンプ トなど）、ディレクトリ、ファイル名、 関数、パラメータ	c:¥Program files¥CLUSTERPRO
モノスペース フォント 太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプト から入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
モノスペース フ ォ ン ト (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入 力する項目	clpstat -s [-h <i>host_name</i>]

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://jpn.nec.com/clusterpro/>

セクション I マネージャ操作リファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X WebManagerの機能の詳細について説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面を使用しています。本ガイドでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe に特化した説明を行っていますので、WebManagerの全体像を理解する際は、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を合わせて参照してください。

- 第 1 章 WebManager の機能

第 1 章 WebManager の機能

本章では、WebManager の機能について説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- WebManager を起動するWebManager を起動する..... 16
- WebManager の画面 18
- WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには..... 29
- WebManager のリストビューで状態を確認する..... 39
- WebManager でアラートを確認する 45
- WebManager を手動で停止/開始する..... 48
- WebManager を利用したくない場合 48
- WebManager の接続制限、操作制限を設定する 48

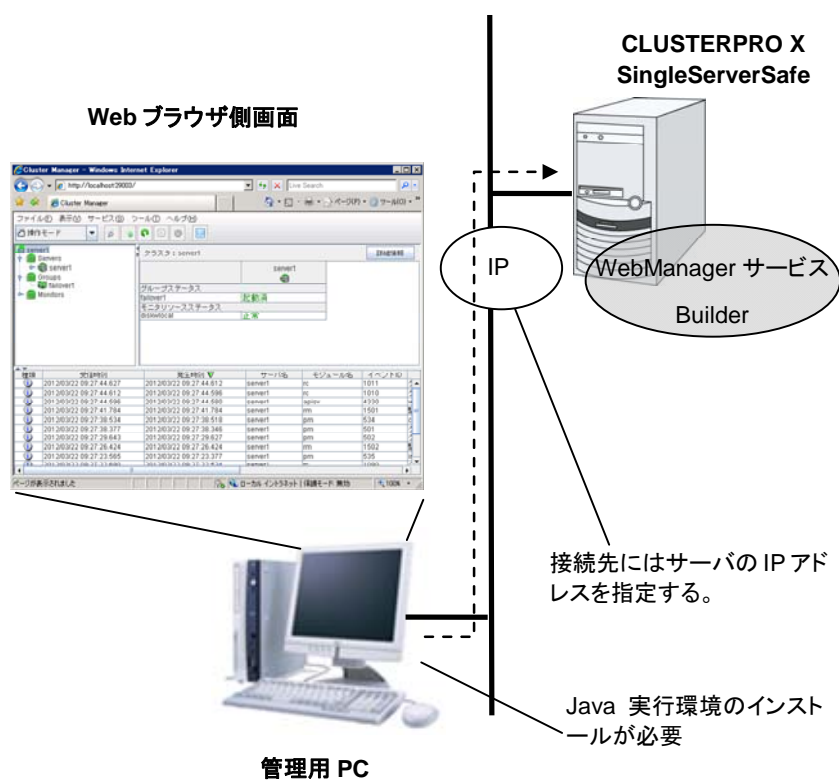
WebManager を起動する

本章で説明する WebManager は、CLUSTERPRO X の WebManager と共通の画面・用語を使用している部分があります。そのため、一部クラスタとしての用語が使用されています。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は1ノードのクラスタであると解釈して本書を読み進めてください。

WebManager とは

WebManager とは、Web ブラウザ経由で CLUSTERPRO の設定と状態監視、サーバ/グループの起動/停止及び、動作ログの収集などを行うための機能です。以下の図に WebManager の概要を示します。



CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサーバ上の WebManager サービスは OS の起動と同時に起動するようになっています。

WebManager を起動するには

WebManager を起動する手順を示します。

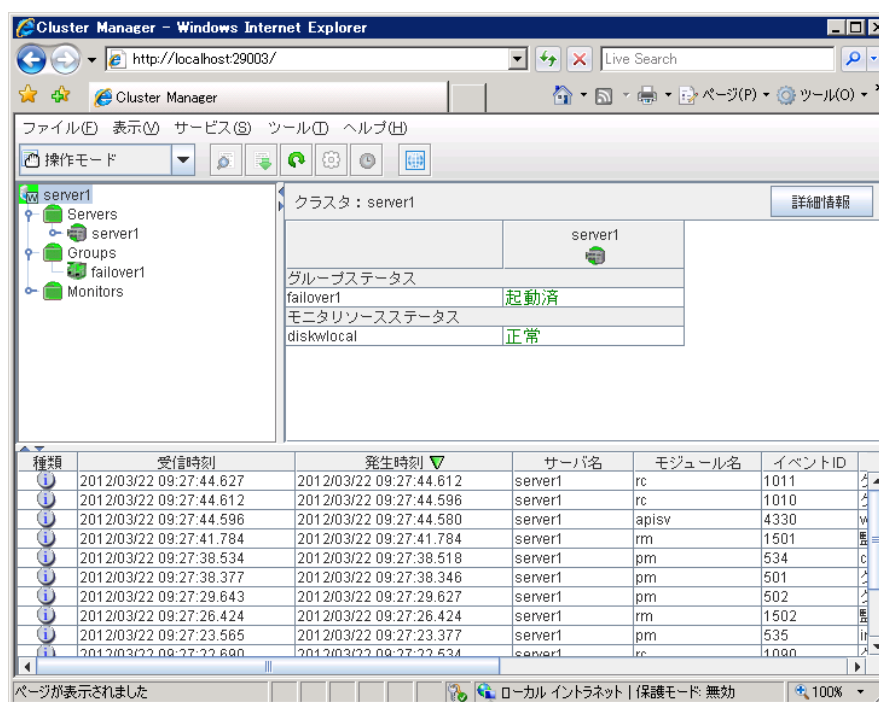
1. Web ブラウザを起動します。
2. ブラウザのアドレス バーに、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールしたサーバの IP アドレスとポート番号を入力します。

http://192.168.0.1:29003/

インストール時に指定したWebManager のポート番号を指定します(既定値29003)。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールしたサーバのIPアドレスを指定します。
自サーバの場合は、localhostでも問題ありません。

3. WebManager が起動します。



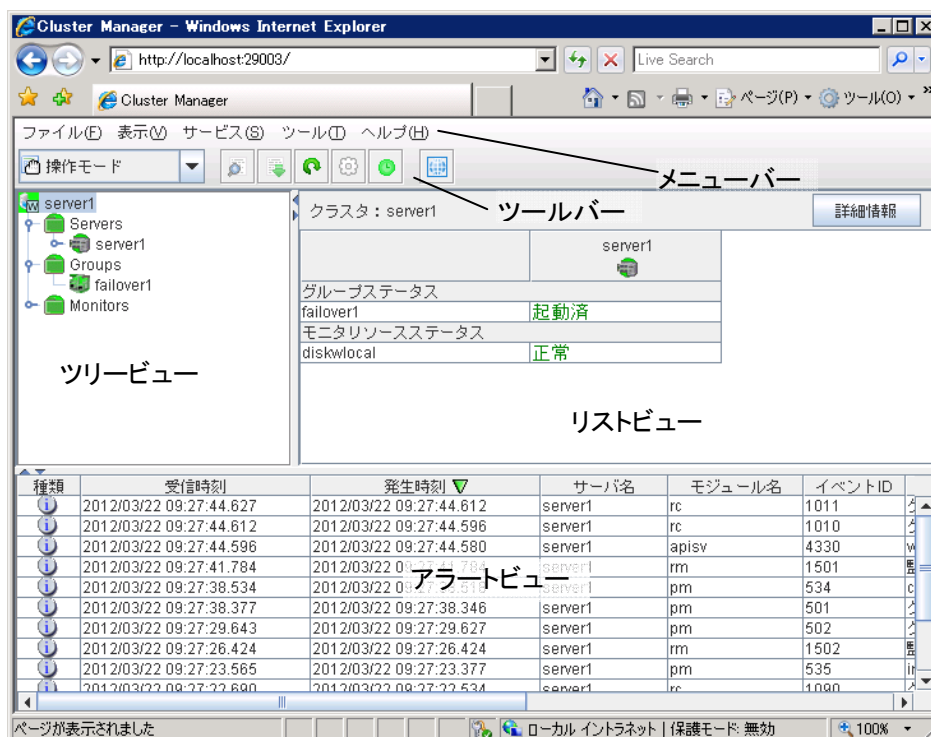
WebManager の画面

WebManager の画面について説明します。

注: WebManager 画面で表示される言語については「クラスタ詳細クラスタ 情報タブ」を参照してください。

WebManager のメイン画面

WebManager の画面は 2 つのバーと 3 つのビューから構成されます。



メニューバー

以下の 5 つのメニューがあり、各メニューの内容は設定モードと操作・参照モードで異なります。操作・参照モードのメニュー内の各項目については本章で後述します。

- ◆ ファイル メニュー
- ◆ 表示 メニュー
- ◆ サービス メニュー
- ◆ ツール メニュー
- ◆ ヘルプ メニュー

ツールバー

ツールバーにある 1 つのドロップダウンメニューと 5 つのアイコンをクリックすると、メニューバーの一部の項目と同じ操作を行うことができます。

アイコン/メニュー	機能	参照先
 操作モード	Webmanagerを操作モードに切り替えます。[表示] メニューの [操作モード] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モードを切り替えるには」 (20ページ)
 設定モード	WebManagerを設定モード(オンライン版Builder)に切り替えます。[表示] メニューの [設定モード] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モードを切り替えるには」 (20ページ)
 参照モード	WebManagerを参照モードへ切り替えます。[表示] メニューの [参照モード] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モードを切り替えるには」 (20ページ)
 検証モード	WebManagerを検証モードへ切り替えます。[表示] メニューの [検証モード] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モードを切り替えるには」 (20ページ)
	アラート検索を実行します。[ツール] メニューの [アラート検索] を選択するのと同じです。	「WebManager でアラートの検索を行うには」 (21ページ)
	ログを採取します。[ツール] メニューの [ログ採取] を選択するのと同じです。	「WebManager を使用してログを収集するには」 (22ページ)
	リロードを実行します。[ツール] メニューの [リロード] を選択するのと同じです。	「WebManager の情報を最新に更新するには」 (24ページ)
	オプションを表示します。[ツール] メニューの [オプション] を選択するのと同じです。	「WebManager の画面レイアウトを変更するには」 (24ページ)
 	時刻情報を表示します。[ツール] メニューの [時刻情報] を選択するのと同じです。 時刻情報が更新された場合、アイコンが変わります。時刻情報ダイアログを表示するとアイコンは元に戻ります。	「WebManager から時刻情報を確認するには」 (25ページ)
	統合マネージャを表示します。[ツール] メニューの [統合マネージャ] を選択するのと同じです。	「WebManager から統合マネージャを起動するには」 (27ページ)

ツリービュー

サーバ、グループリソースなどの状態が確認できます。詳しくは 29 ページの「WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには」を参照してください。

リストビュー





上段には、ツリー ビューで選択したサーバなどの情報が表示されます。下段には、サーバ、各グループリソースや各モニタリソースの起動・停止状況とコメントが一覧表示されます。また、右上の [詳細情報] ボタンを選択すると、さらに詳しい情報がダイアログで表示されます。詳しくは 39 ページの「WebManager のリストビューで状態を確認する」を参照してください。

アラートビュー

CLUSTERPRO X SingleServerSafeの動作状況がメッセージとして表示されます。詳しくは 45 ページの「WebManager でアラートを確認する」を参照してください。

WebManager の動作モードを切り替えるには

WebManager には以下の 4 つの動作モードがあります。

- ◆ **操作モード**
サーバの状態参照と操作の両方が可能なモードです。
[表示] メニューの [操作モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで  操作モード] を選択すると操作モードに切り替わります。ただし、WebManager起動時に参照モード専用のパスワードでログインした場合や、操作制限するように登録されたクライアントからWebManagerに接続した場合には、操作モードに切り替えることはできません。
- ◆ **参照モード**
サーバの状態参照のみ可能で操作ができないモードです。
[表示] メニューの [参照モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで  参照モード] を選択すると参照モードに切り替わります。
- ◆ **設定モード**
サーバの構築・設定変更が可能なモードです。設定モードのWebManagerをオンライン版 Builder と呼びます。設定モードの動作については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』を参照ください。
[表示] メニューの [設定モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで  設定モード] を選択すると設定モードに切り替わります。ただし、操作制限するように登録されたクライアントからWebManagerに接続した場合には、設定モードに切り替えることはできません。
- ◆ **検証モード**
任意のモニタリソースで疑似障害を発生/解除させるためモードです。
[表示] メニューの [検証モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで  検証モード] を選択すると検証モードに切り替わります。ただし、操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合には、検証モードに切り替えることはできません。
また、検証モードから、他のモードに切り替えると、「全てのモニタの疑似障害を停止しますか?」というダイアログが表示されます。「はい」を選択すると、疑似障害発生状態のモニタリソースが、全て通常の監視に戻ります。「いいえ」を選択すると、疑似障害発生状態のモニタリソースは、疑似障害発生状態を維持したまま他のモードに切り替わります。


注: WebManager の [操作モード] [参照モード] [検証モード] でポップアップ画面を表示している状態で [設定モード] に切り替えた場合、開いているポップアップ画面は終了します。

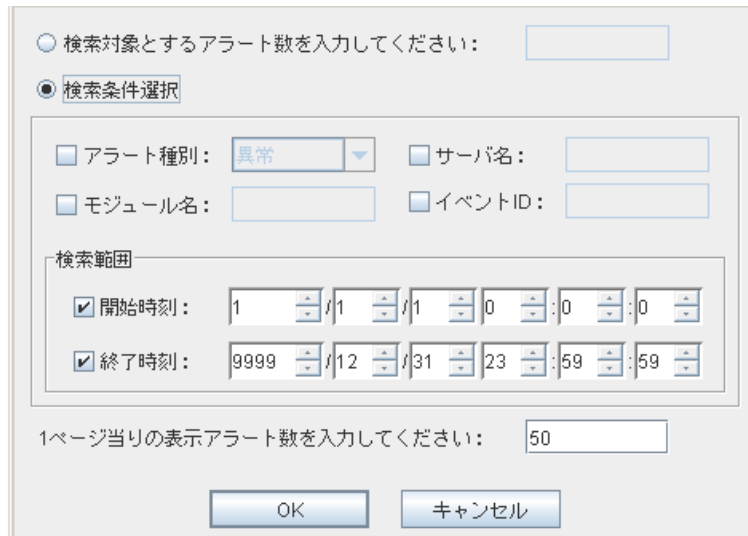
ポップアップ画面で実行している操作は継続して実行されます。

WebManager でアラートの検索を行うには

WebManager を使用して、アラートの検索を行うことができます。特定のタイプのアラートのみを参照したい場合などに便利です。

注： アラートログに関しては、45ページの「WebManager でアラートを確認する」も合わせて参照してください。

アラート検索を行うには、[ツール] メニューの [アラート検索]、またはツールバーのアラート検索アイコン()をクリックします。アラートログの検索条件を設定する画面が表示されます。



指定した数の過去何件分のアラートのみを検索対象としたい場合：

1. [検索対象とするアラート数を入力してください] を選択します。
2. 検索したいアラートの数を入力し、[OK] をクリックすると、指定した数の過去のアラートが表示されます。


注： 入力可能なアラート件数の最大値は Builder の [クラスタのプロパティ] - [アラートログ] - [保存最大アラートレコード数] で設定できます。

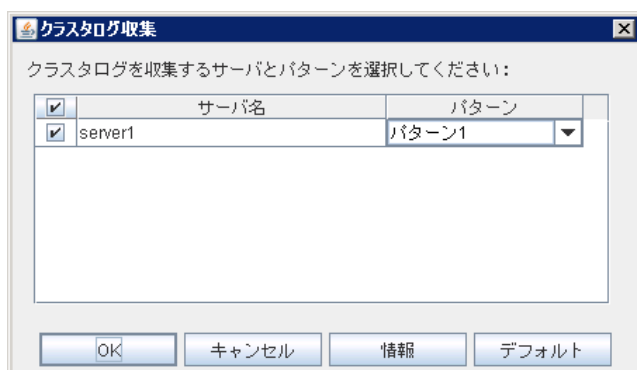
検索条件を指定して検索したい場合：

1. [検索条件選択] を選択します。
2. 各フィールドに検索条件を設定して、検索を実行します。
 - [アラート種別] で、表示したいアラートの種別を選択します。
 - [モジュール名] で、アラートを表示したいモジュールのタイプを入力します。
 - [サーバ名] で、アラートを表示したいサーバを入力します。
 - [イベント ID] に表示したいイベント ID を入力します。
イベントIDについては「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。
 - イベントの発生時刻で検索条件を絞りこみたい場合は、[開始時刻] と [終了時刻] に値を入力します。

3. ページ当りに表示する検索結果のアラート数を [1 ページ当りの表示アラート数を入力してください:] で指定して、[OK] をクリックします。検索結果が発生時刻を基準にして、降順で表示されます。
4. 検索結果が複数ページに表示されている場合は、[前ページ]、[次ページ]、[ジャンプ] ボタンをクリックして移動します。

WebManager を使用してログを収集するには

[ツール] メニューの [クラスタログ収集]、またはツールバーのクラスタログ収集アイコン() をクリックすると、[クラスタログ収集] ダイアログボックスが表示されます。



チェックボックス

ログを収集するサーバを選択します。ログを収集するサーバのチェックボックスをオンにします。

パターン

収集する情報を選択します。ログの収集パターンは、パターン 1 ~ 4 を指定します。

	パターン 1	パターン 2	パターン 3	パターン 4
(1) デフォルト収集情報	○	○	○	×
(2) イベントログ	○	○	○	○
(3) ワトソンログ	○	○	○	○
(4) ユーザダンプ	○	○	×	×
(5) 診断プログラムレポート	○	○	×	×
(6) レジストリ	○	○	○	×
(7) スクリプト	○	○	○	×
(8) ESM/PRO/AC、ESM/PRO/UPSC ログ	○	○	○	×
(9) HA ログ	×	○	×	×

(1) ~ (9) の採取内容については、67 ページからの「第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンスログを収集する (clplogcc コマンド)」を参照してください。

[OK] ボタン

ログ収集が開始され [ログ収集進捗] ダイアログボックスが表示されます。

[キャンセル] ボタン

このダイアログを閉じます。

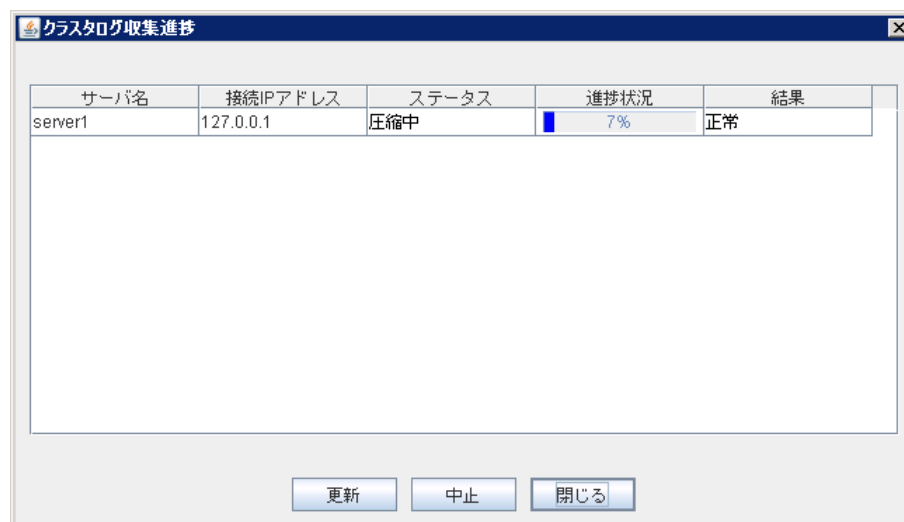
[情報] ボタン

各パターンの情報が表示されます。

[デフォルト] ボタン

サーバ選択とパターン選択を既定値に戻します。

ログ収集が開始されると、下記のダイアログボックスが表示されます。



[更新] ボタン

[ログ収集進捗] ダイアログボックスを、最新の状態に更新します。

[中止] ボタン

ログ収集を中止します。

[閉じる] ボタン

[ログ収集進捗] ダイアログボックスを閉じます。ログ収集は継続して動作しています。この時、タイトルビューの [ログ収集] は [進捗状況] に表示が変わっています。再度 [ログ収集進捗] ダイアログボックスを表示するには ツールメニューの [進捗状況] をクリックしてください。

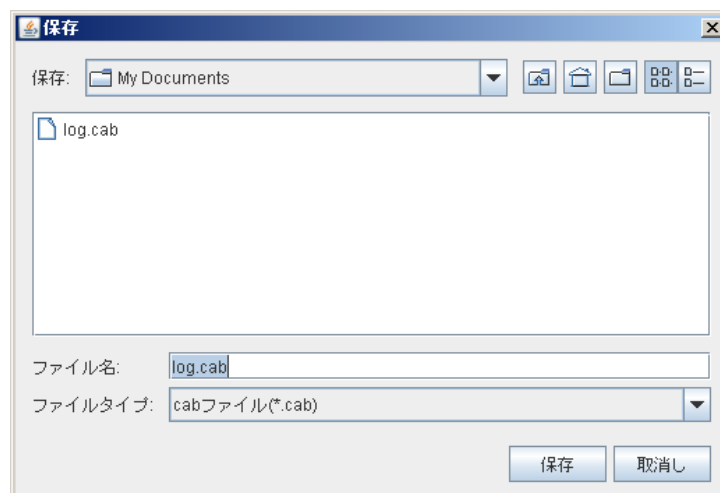
ログ収集結果

結果	説明
正常	成功です。
中止	ユーザによってログ収集が中止されました。
パラメータ不正	内部エラーが発生した可能性があります。
送信エラー	接続エラーが発生しました。
タイムアウト	処理にタイムアウトが発生しました。
ビジー	サーバがビジー状態です。
圧縮エラー	ファイル圧縮時にエラーが発生しました。
ファイルI/Oエラー	ファイルが存在しません。

空き容量不足	ディスクに空き容量がありません。
--------	------------------

その他異常	その他のエラーによる失敗です。
-------	-----------------

ログ収集が完了すると、ブラウザのダウンロード保存ダイアログボックスが表示されるので、適当な場所にログをダウンロードしてください。





注：この状態のまま 10 分以上経つと、正常にダウンロードできないことがあります。

注：ログ収集中に、他のモーダルダイアログボックスを表示していると、ログ収集のファイル保存ダイアログボックスが表示されません。ログ収集のファイル保存ダイアログボックスを表示するには、他のモーダルダイアログボックスを終了してください。

注：ログファイルサイズが 2GB を超えた場合、圧縮形式の仕様によりログ収集に失敗します。収集対象のログを調整するか、ログ収集パターンを変更してください。

WebManager の情報を最新に更新するには

WebManager に表示される情報を最新に更新するには、[ツール] メニューの [リロード]、またはツールバーのリロードアイコン()をクリックします。

注：WebManager のクライアントデータ更新方法が Polling に設定されている場合、WebManager で表示される内容は定期的に更新され、状態が変化しても即座には表示に反映されません。最新の内容を表示したい場合は、操作を行った後 [リロード] アイコン  または [ツール] メニューの [リロード] をクリックしてください。

WebManager の自動更新間隔は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] タブ - [調整] ボタン - [画面データ更新インターバル] の項目で調整可能です。



接続先と通信不可である場合、及び、接続先で CLUSTERPRO X SingleServerSafe が動作していない場合などは、一部オブジェクトが灰色で表示されることがあります。


WebManager の画面レイアウトを変更するには

各ビューを区切っているスプリットバーのボタンをクリックするか、バーをドラッグすると、WebManager の画面レイアウトを変更できます。特定のビューのみを表示したい場合などに便利です。

スプリットバーとは、WebManager の各ビューを区切っている



のバーのことで、 を選択するとそのビューを最大表示にし、 を選択するとそのビューを非表示にすることが可能です。

ツリービューの表示項目を変更するには、[ツール] メニューの [オプション]、またはツールバーのオプションアイコン  をクリックします。


下記ダイアログが表示されるので、表示したい項目にチェックします。

☐ 各サーバの下に起動済みグループのショートカットを表示する

☒ 各サーバの下にハートビートリソースとNP解決リソースを表示する

OK キャンセル

WebManager から時刻情報を確認するには

WebManager から時刻情報を確認するには、[ツール] メニューの [時刻情報]、またはツールバーの時刻情報アイコン  をクリックします。

サーバタブに表示される時刻情報

サーバ	グループ	モニタ
server1		
クラスタ参加		
server1		2012/03/22 09:27:41.034 (GMT+09:00)

クリア 更新 閉じる

- ◆ クラスタ参加
サーバがクラスタに参加した直近の時刻が表示されます。

グループタブに表示される時刻情報

server1	
最終活性	failover1
failover1	2012/03/22 09:27:44.612 (GMT+09:00)
最終活性異常	

server1	
最終非活性	failover1
failover1	-
最終非活性異常	

- ◆ 最終活性
フェイルオーバーグループがサーバ上で最後に活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終活性異常
グループリソースがサーバ上で最後に活性異常を検出した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性
フェイルオーバーグループがサーバ上で最後に非活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性異常
グループリソースがサーバ上で最後に非活性異常を検出した時刻が表示されます。

モニタタブに表示される時刻情報

server1	
最終異常検出	diskwlocal
diskwlocal	-

- ◆ 最終異常検出
各モニタリソースがサーバ上で最後に正常状態から異常状態に遷移した時刻が表示されます。

注：外部連携モニタリソースは非対応です。

[クリア] ボタン

表示しているタブの時刻情報を削除します。

[更新] ボタン


全てのタブの時刻情報を再取得します。

[閉じる] ボタン

時刻情報ダイアログボックスを閉じます。

注：WebManager の [クライアントデータ更新方法] が [Polling] に設定されている環境で、本画面の[クリア]ボタンを押した時にツールバーの時刻情報アイコンが点灯することがありますがクラスタとしては問題ありません。

WebManager から統合マネージャを起動するには

WebManager から統合マネージャを起動するには、[ツール] メニューの [統合マネージャ]、またはツールバーの統合マネージャアイコン  をクリックします。

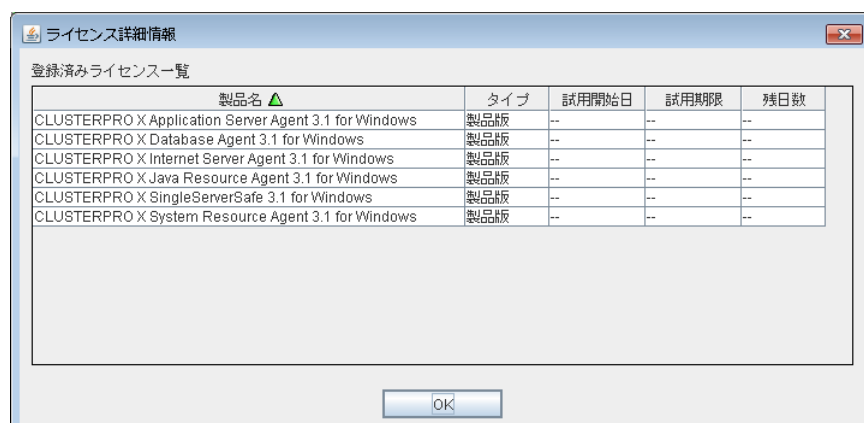
WebManager からサービスの操作を行うには

WebManager から各サービスの操作を行うには、[サービス] メニューから下記の各項目を選択します。

- ◆ クラスタサスペンド
CLUSTERPRO Server サービスの一時停止を行います。CLUSTERPRO Server サービスが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタリジューム
サスペンドしたCLUSTERPRO Server サービスの再開を行います。CLUSTERPRO Server サービスがサスペンドしている状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ開始
CLUSTERPRO Server サービスの起動を行います。CLUSTERPRO Server サービスが停止している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ停止
CLUSTERPRO Server サービスの停止を行います。CLUSTERPRO Server サービスが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ マネージャ再起動
WebManager の再起動を行います。

WebManager からライセンスを確認するには

WebManager からライセンスを確認するには、[ヘルプ] メニューの [ライセンス情報] をクリックします。



登録済みライセンス一覧

接続先サーバに登録されているライセンスが表示されます。

一覧のフィールド名を選択することにより各項目を並び替えることが可能です。

既定の状態では [製品名] について昇順に並んでいます。

[OK] ボタン

ライセンス情報ダイアログボックスを閉じます。

WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには

WebManager の画面上で、各オブジェクトの状態を視覚的に確認できます。以下にその手順を示します。

画面左にツリーが表示されます。各オブジェクトのアイコンの形や色によって状態を確認します。ツリーに表示される各オブジェクトの色については、『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の「第 1 章 WebManager の機能」を参照してください。

注： ツリー構成は CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンや併用するオプション製品によって異なります。

WebManager から実行できる操作

[クラスタ全体]、[特定サーバ]、[特定グループ]、[特定のグループリソース]は右クリックを行うことで、クラスタに対する操作を行うことが可能です。

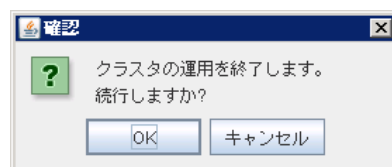
クラスタ全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



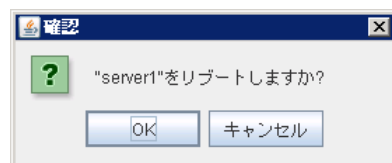
◆ シャットダウン

稼動中のサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ リブート

稼動中の全てのサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ サービス

選択するとショートカット メニューに [クラスタサスペンド]、[クラスタリジューム]、[クラスタ開始]、[クラスタ停止]、[マネージャ再起動] が表示されます。

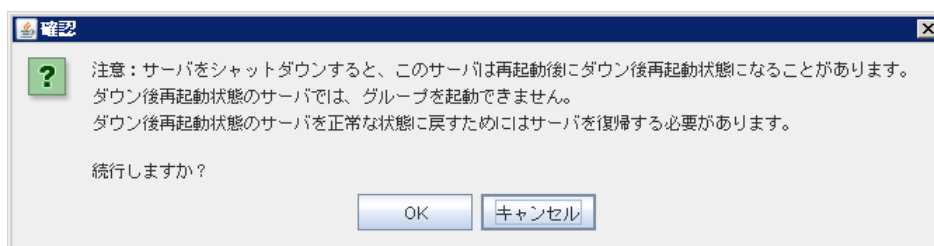
特定サーバのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



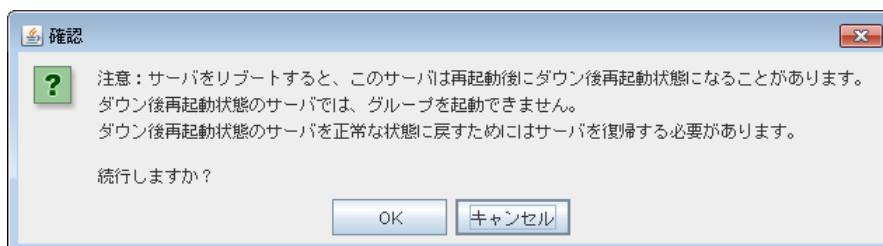
◆ シャットダウン

選択したサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



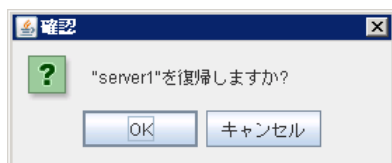
◆ リブート

選択したサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



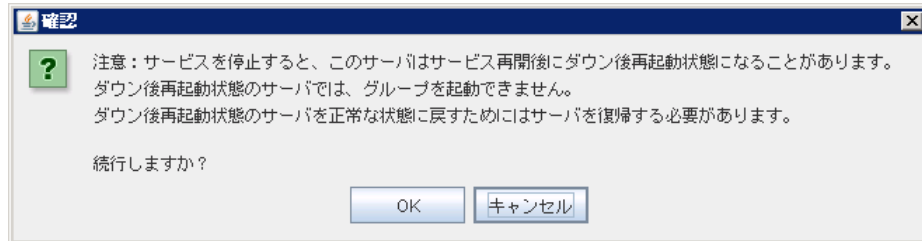
◆ 復帰

選択したサーバを復帰します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ サービス

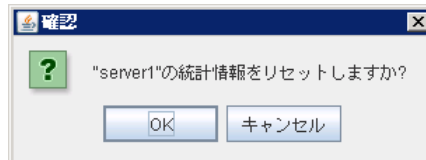
選択したサーバを開始および停止します。[停止] を選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



SingleServerSafe の場合、[開始] は選択できません。

◆ 統計情報リセット

選択したサーバの統計情報をリセットします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

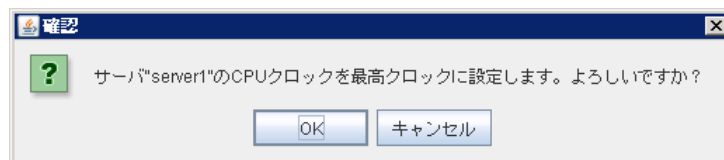


◆ CPU クロック制御

選択したサーバの CPU クロック制御機能を設定します。

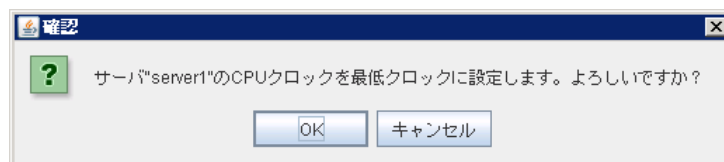
● 最高クロック

CPU クロック数を最高にします。



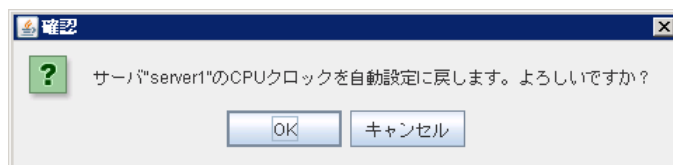
● 最低クロック

CPU クロック数を下げて省電力モードにします。



● 自動設定

CPU クロックの制御を CLUSTERPRO の自動制御に戻します。

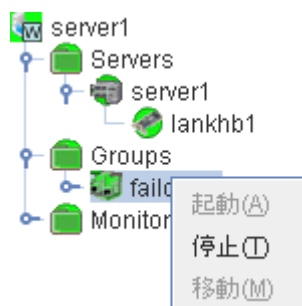


クラスタのプロパティの [省電力] タブの設定で [CPU クロック制御機能を使用する] にチェックが入っていない場合、この機能は使えません。

特定グループのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。

グループのタイプがフェイルオーバーの場合

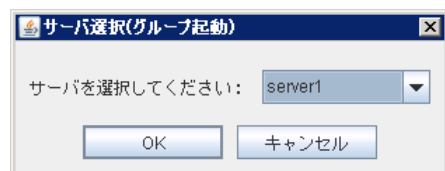


グループのタイプが仮想マシンの場合



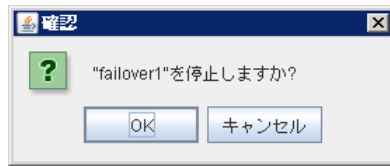
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ 移動

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用しません。

◆ マイグレーション (グループタイプが仮想マシンの場合にのみ表示されます)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用しません。

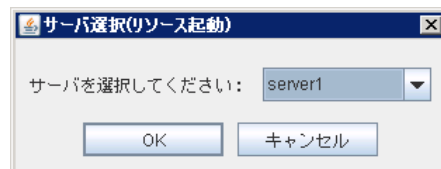
特定グループリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



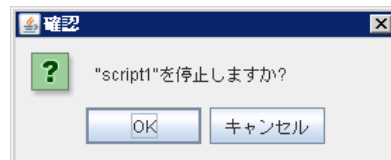
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



モニタリソース全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。

操作モード選択時

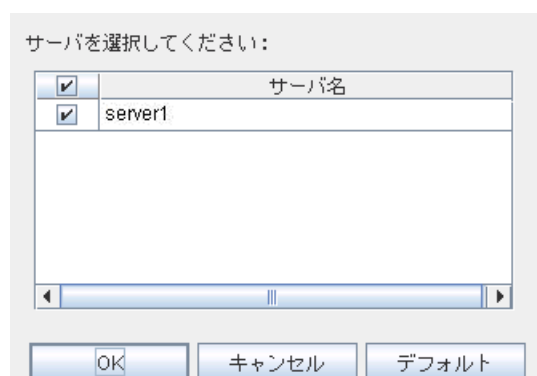


検証モード選択時



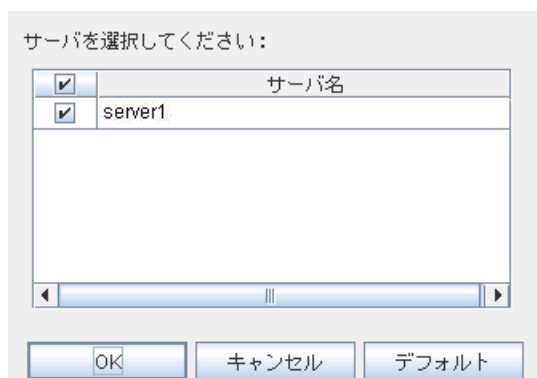
◆ 再開（一時停止中のみ選択可能）

設定されている全てのモニタリソースを再開します。ただし、監視一時停止/再開が不可能なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで再開するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 一時停止（監視中のみ選択可能）

設定されている全てのモニタリソースを一時停止します。ただし、監視一時停止/再開が不可能なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで一時停止するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 擬似障害解除(擬似障害発生中のみ選択可能)

全てのモニタリソースの擬似障害を解除します。

モニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されます。



特定のモニタリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。

操作モード選択時



検証モード選択時



◆ 再開（一時停止中のみ選択可能）

選択したモニタリソースを再開します。選択したモニタリソースをどのサーバで再開するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 一時停止（監視中のみ選択可能）

選択したモニタリソースを一時停止します。選択したモニタリソースをどのサーバで一時停止するか選択するダイアログが表示されます。



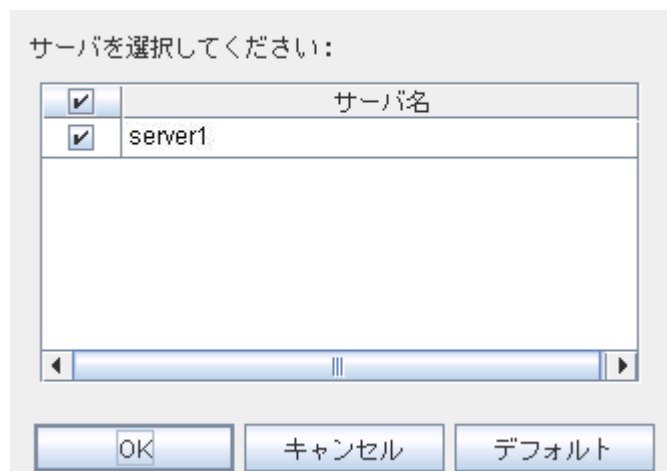
◆ 擬似障害発生（検証モードの場合のみ選択可能）

選択したモニタリソースの擬似障害を発生させます。擬似障害を発生させるには、該当のモニタリソースで、[各サーバでのリソースステータス]が、異常または擬似障害発生状態以外のサーバでのみ、選択可能です。

ただし、以下のモニタリソースは選択できません。

- ・ 外部連携監視リソース
- ・ 仮想マシン監視リソース

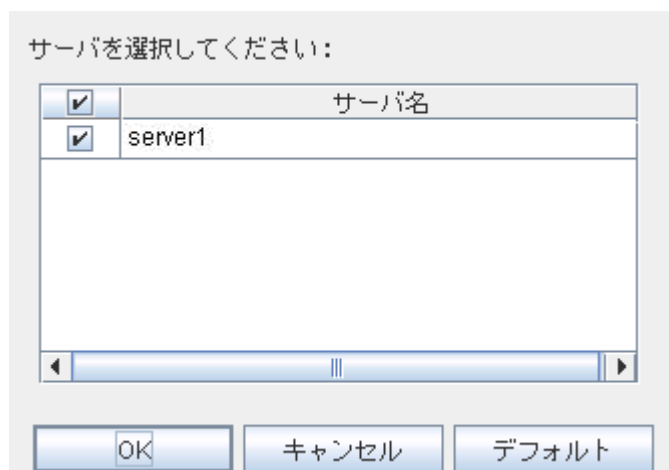
選択したモニタリソースの擬似障害を発生させるサーバを選択するダイアログが表示されます。



◆ 擬似障害解除（検証モードの場合のみ選択可能）

選択したモニタリソースの擬似障害を解除します。


選択したモニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されます。

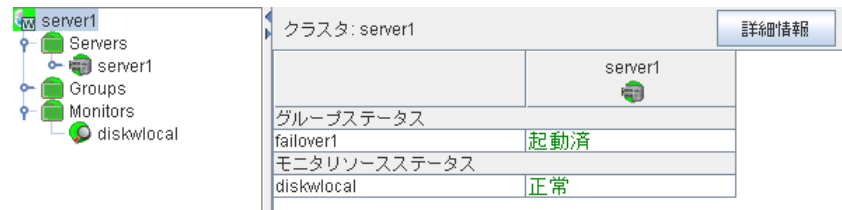


WebManager のリストビューで状態を確認する

リストビューでは WebManager のツリービューで選択したオブジェクトの詳細情報を見ることができます。

WebManager のリストビューで全体の詳細情報をリスト表示するには

1. WebManager を起動します (<http://サーバのIPアドレス:ポート番号> (既定値 29003))。
2. ツリービューで全体のオブジェクト  を選択します。右側のリストビューに各サーバのグループステータスとモニタリソースステータスが表示されます。



3. [詳細情報] ボタンをクリックします。以下の内容がダイアログ ボックスに表示されます。

情報

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動割当	省電力	JVM 監視	監視	遅延警告			
情報	ハートビート I/F	タイムアウト	ポート番号	リカバリ						
プロパティ			設定値							
名前			server1							
コメント										
ステータス			正常							

名前	クラスタ名
コメント	クラスタのコメント
ステータス	クラスタのステータス

ハートビート I/F

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト		ポート番号		リカバリ	遅延警告
プロパティ				設定値			
サーバダウン通知				する			
送信方法				ユニキャスト			

サーバダウン通知	未使用
送信方法	ハートビートの送信方法(ユニキャスト/ブロードキャスト)を設定(ハートビート I/F の IP アドレスが IPv6 の場合、ブロードキャストは利用できません)

タイムアウト

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視		
情報	ハートビート I/F	タイムアウト	ポート番号		リカバリ		遅延警告	
プロパティ				設定値				
同期待ち時間				300				
ハートビートタイムアウト				300000				
ハートビートインターバル				30000				
内部通信タイムアウト				180				
タイムアウト倍率				1				

同期待ち時間	未使用
ハートビートタイムアウト	ハートビートのタイムアウト時間(ミリ秒)
ハートビートインターバル	ハートビートの送信間隔(ミリ秒)
内部通信タイムアウト	内部通信タイムアウト時間(秒)
タイムアウト倍率	現在のタイムアウト倍率

ポート番号

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
内部通信ポート番号			29001				
データ転送ポート番号			29002				
カーネルモードハートビートポート番号			29106				
クライアントサービスポート番号			29007				
WebManager HTTPポート番号			29003				
アラート同期ポート番号			29003				
ディスクエージェントポート番号			29004				
ミラードライバポート番号			29005				

内部通信ポート番号	内部通信で使用するポート番号
データ転送ポート番号	データ転送で使用するポート番号
カーネルモードハートビートポート番号	カーネルモードハートビートで使用するポート番号
クライアントサービスポート番号	クライアントで使用するポート番号
WebManager HTTP ポート番号	WebManager で使用するポート番号
アラート同期ポート番号	アラート同期に使用するポート番号
ディスクエージェントポート番号	未使用
ミラードライバポート番号	未使用

リカバリ

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
最大再起動回数			3				
最大再起動回数をリセットする時間			60				
強制停止機能を使用する			しない				
強制停止アクション			BMC パワーオフ				
強制停止タイムアウト (秒)			3				
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)			しない				
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)			しない				
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)			しない				

最大再起動回数	最大再起動回数
最大再起動回数をリセットする時間	最大再起動回数をリセットする時間(秒)
強制停止機能を使用する	未使用
強制停止アクション	未使用
強制停止タイムアウト	未使用
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)	最後の一台の場合の活性異常時のシャットダウンの抑制の有無
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)	最後の一台の場合の非活性異常時のシャットダウンの抑制の有無
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)	最後の一台の場合の監視異常時のシャットダウンの抑制の有無

遅延警告

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
ハートビート遅延警告			80				
モニタ遅延警告			80				
COM遅延警告			80				

ハートビート遅延警告 ハートビートの遅延警告(%)
 モニタ遅延警告 モニタの遅延警告(%)
 COM 遅延警告 未使用

アラートサービス

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
メールアドレス							
ネットワーク警告灯を使用する			しない				
筐体IDランプ連携を使用する			しない				
アラート通報設定を有効にする			しない				

メールアドレス 通報先メールアドレス
 ネットワーク警告灯を使用する 未使用
 筐体 ID ランプ連携を使用する 未使用
 アラート通報設定を有効にする アラート通報設定の使用の有無

ミラーディスク

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
自動ミラー初期構築			する				
自動ミラー復帰			する				
統計情報を採取する			する				
ミラーディスク切断リトライしきい値			10				
ミラーディスク切断リトライインターバル			3				
ミラーディスク切断時最終動作			強制切断する				

自動ミラー初期構築 未使用
 自動ミラー復帰 未使用
 統計情報を採取する 未使用
 ミラーディスク切断リトライしきい値 未使用
 ミラーディスク切断リトライインターバル 未使用
 ミラーディスク切断時最終動作 未使用

ディスク

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視	
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告		
プロパティ			設定値				
共有ディスク切断リトライしきい値			10				
共有ディスク切断リトライインターバル			3				
共有ディスク切断時最終動作			強制切断する				

共有ディスク切断リトライしきい値 未使用
 共有ディスク切断リトライインターバル 未使用
 共有ディスク切断時最終動作 未使用

自動復帰

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告	
プロパティ			設定値			
自動復帰			する			

自動復帰

サーバが「保留(ダウン後再起動)」で起動後、自動的にサーバの「復帰」を行うか否かの設定

省電力

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告	
プロパティ			設定値			
CPUクロック制御機能を使用する			しない			

CPU クロック制御機能を使用する CPU クロック制御機能の使用の有無

JVM 監視

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復帰	省電力	JVM 監視	監視
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告	
プロパティ			設定値			
Javaインストールパス			C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_34			
最大Javaヒープサイズ(MB)			7			
ロードバランサ連携設定			連携しない			
ログレベル			INFO			
保持するログファイルの世代数			10			
ログローテーション方式			ファイルサイズ			
ログファイルの最大サイズ(KB)			3072			
ログローテーションを最初に行う時刻			00:00			
ログローテーションのインターバル(時間)			24			
リソース計測: 計測リトライ回数			10			
リソース計測: 異常判定しきい値			5			
リソース計測: メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)			60			
リソース計測: Full GCの計測インターバル(秒)			120			
WebLogic監視: 計測リトライ回数			3			
WebLogic監視: 異常判定しきい値			5			
WebLogic監視: リクエスト数の計測インターバル(秒)			60			
WebLogic監視: 平均値の計測インターバル(秒)			300			
管理ポート番号			25500			
接続のリトライ回数			3			
再接続までの待ち時間(秒)			60			
ロードバランサ連携の管理ポート番号			25550			
ヘルスチェック機能と連携する			しない			
HTML格納ディレクトリ						
HTMLファイル名						
HTMLリネーム先ファイル名						
リネーム失敗時のリトライ回数			3			
リネームのリトライまでの待ち時間(秒)			3			
mgmt IPアドレス			10.0.0.1			
通信ポート番号			443			

Java インストールパス

最大 Java ヒープサイズ(MB)

ロードバランサ連携設定

ログレベル

保持するログファイルの世代数

ログローテーション方式

ログファイルの最大サイズ(KB)

ログローテーションを最初に行う時刻

ログローテーションのインターバル(時間)

リソース計測: 計測リトライ回数

リソース計測: 異常判定しきい値

リソース計測: メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)

Java インストールパス

最大 Java ヒープサイズ(MB)

ロードバランサ連携設定

ログレベル

保持するログファイルの世代数

ログローテーション方式

ログファイルの最大サイズ(KB)

ログローテーションを最初に行う時刻

ログローテーションのインターバル(時間)

リソース計測: 計測リトライ回数

リソース計測: 異常判定しきい値

リソース計測:メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)	リソース計測:メモリ、スレッドの計測インターバル(秒)
リソース計測:Full GC の計測インターバル(秒)	リソース計測:Full GC の計測インターバル(秒)
WebLogic 監視:計測リトライ回数	WebLogic 監視:計測リトライ回数
WebLogic 監視:異常判定しきい値	WebLogic 監視:異常判定しきい値
WebLogic 監視:リクエスト数の計測インターバル(秒)	WebLogic 監視:リクエスト数の計測インターバル(秒)
WebLogic 監視:平均値の計測インターバル(秒)	WebLogic 監視:平均値の計測インターバル(秒)
管理ポート番号	管理ポート番号
接続のリトライ回数	接続のリトライ回数
再接続までの待ち時間(秒)	再接続までの待ち時間(秒)
ロードバランサ連携の管理ポート番号	ロードバランサ連携の管理ポート番号
ヘルスチェック機能と連携する	ヘルスチェック機能と連携する
HTML 格納ディレクトリ	HTML 格納ディレクトリ
HTML ファイル名	HTML ファイル名
HTML リネーム先ファイル名	HTML リネーム先ファイル名
リネーム失敗時のリトライ回数	リネーム失敗時のリトライ回数
リネームのリトライまでの待ち時間(秒)	リネームのリトライまでの待ち時間(秒)
mgmt IP アドレス	BIG-IP LTM の管理 IP アドレス
通信ポート番号	BIG-IP LTM との通信ポート番号

監視

アラートサービス	ミラーディスク	ディスク	自動復旧	省電力	JVM 監視	監視
情報	ハートビートIF	タイムアウト	ポート番号	リカバリ	遅延警告	
プロパティ			設定値			
システムリソース情報を収集する			しない			

システムリソース情報を収集する システムリソース情報収集の有無

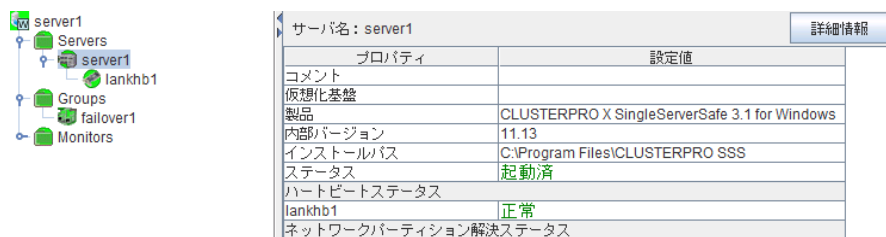
WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには

1. WebManager を起動します (<http://サーバのIPアドレス:ポート番号> (既定値 29003))。
2. ツリービューでサーバ全体のオブジェクト [] を選択すると、右側のリストビューの上段に各サーバ上のハートビートステータス、ネットワークパーティション解決ステータス一覧が表示されます。



WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには

1. WebManager を起動します (<http://サーバのIPアドレス:ポート番号> (既定値 29003))。
2. ツリービューで特定サーバのオブジェクト [] を選択すると、サーバの [コメント]、[製品]、[内部バージョン]、[インストールパス]、[ステータス]が表示されます。




コメント	サーバのコメント
仮想化基盤	仮想化基盤名
製品	製品名
内部バージョン	内部のバージョン
インストールパス	CLUSTERPRO のインストールパス
ステータス	サーバのステータス

3. [詳細情報]ボタンをクリックすると、以下の内容がダイアログ ボックスに表示されます。

サーバ 詳細プロパティ (server1)	
プロパティ	設定値
名前	server1
ミラーディスクコネク ト IP アドレス	
ネットワーク警告灯 IP アドレス (種類)	
BMC IP アドレス	
CPU クロック状態	-
両系活性検出時のシャットダウンを抑制する	しない

名前	サーバ名
ミラーディスクコネク ト IP アドレス	未使用
ネットワーク警告灯 IP アドレス (種類)	未使用
BMC IP アドレス	未使用
CPU クロック状態	CPU クロック制御の現在の設定状態
両系活性検出時のシャットダウンを抑制する	未使用

WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには



















- WebManager を起動します ([http:// サーバのIPアドレス:ポート番号](http://サーバのIPアドレス:ポート番号) (既定値 29003))。
- ツリービューでモニタ全体のオブジェクト [] を選択すると、リストビューに [モニタ名] とステータス一覧が表示されます。



WebManager でアラートを確認する

WebManager の下部分で、アラートを確認することができます。

アラートビューの各フィールドは、以下のような構成になっています。




種類	受信時刻	発生時刻	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
(1) アラート種別アイコン	(2) アラート受信時刻	(3) アラート発信時刻	(4) アラート発信元サーバ	(5) アラート発信元モジュール	(6) イベントID	(7) アラートメッセージ
	2010/09/17 14:56:53.724	2010/09/17 14:56:53.724	server1	rm	1530	監視 disklocal を再開しました。
	2010/09/17 14:56:51.708	2010/09/17 14:56:51.708	server1	apisv	4361	webmgr(P=127.0.0.1) より監視の再開が要求されました。
	2010/09/17 14:56:25.490	2010/09/17 14:56:25.490	server1	rm	1529	監視 disklocal を一時停止しました。
	2010/09/17 14:56:24.849	2010/09/17 14:56:24.849	server1	apisv	4360	webmgr(P=127.0.0.1) より監視の一時停止が要求されました。
	2010/09/17 14:55:08.911	2010/09/17 14:55:08.896	server1	rc	1131	リソース script1 の単体起動が完了しました。
	2010/09/17 14:55:08.896	2010/09/17 14:55:08.880	server1	rc	1011	グループ failover1 の起動が完了しました。
	2010/09/17 14:55:05.786	2010/09/17 14:55:05.786	server1	rc	1130	リソース script1 を単体起動しています。
	2010/09/17 14:55:05.771	2010/09/17 14:55:05.771	server1	apisv	4350	webmgr(P=127.0.0.1) よりリソース script1 の開始が要求されました。
	2010/09/17 14:54:48.599	2010/09/17 14:54:48.583	server1	rc	1141	リソース script1 の単体停止が完了しました。
	2010/09/17 14:54:48.583	2010/09/17 14:54:48.583	server1	rc	1021	グループ failover1 の停止が完了しました。
	2010/09/17 14:54:45.536	2010/09/17 14:54:45.458	server1	rc	1140	リソース script1 を単体停止しています。
	2010/09/17 14:54:45.458	2010/09/17 14:54:45.458	server1	apisv	4352	webmgr(P=127.0.0.1) よりリソース script1 の停止が要求されました。
	2010/09/17 14:53:12.396	2010/09/17 14:53:12.396	server1	rm	1501	監視 disklocal が起動しました。
	2010/09/17 14:53:07.349	2010/09/17 14:53:07.318	server1	rc	1440	CPUクロックレベルを最高に設定しました。
	2010/09/17 14:53:06.880	2010/09/17 14:53:06.880	server1	pm	534	commandよりクラスタサービスのリジュームが要求されました。
	2010/09/17 14:53:06.833	2010/09/17 14:53:06.818	server1	pm	501	クラスタサービスは正常に開始しました。
	2010/09/17 14:52:50.177	2010/09/17 14:52:50.177	server1	pm	502	クラスタサービスは停止しています。
	2010/09/17 14:52:47.161	2010/09/17 14:52:47.161	server1	rm	1502	監視 disklocal が停止しました。

なお、各アラートメッセージの意味については、本書の「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。また、アラートメッセージの検索については、本章の「WebManager でアラートの検索を行うには」を参照してください。

アラートビューの各フィールドについて

WebManager のアラートビューの各フィールドの意味は以下のとおりです。

(1) アラート種別アイコン

アラート種別	意味
	情報メッセージであることを示しています。
	警告メッセージであることを示しています。
	異常メッセージであることを示しています。

(2) アラート受信時刻

アラートを受信した時刻です。WebManager 接続先のサーバの時刻が適用されます。

(3) アラート発信時刻

サーバからアラートが発信された時刻です。アラート発信元サーバの時刻が適用されます。

(4) アラート発信元サーバ

アラートを発信したサーバのサーバ名です。

(5) アラート発信元モジュール

アラートを発信したモジュールのモジュール名です。

モジュール名のタイプ一覧は、21 ページの「WebManager でアラートの検索を行うには」を参照してください。

(6) イベント ID

各アラートに設定されているイベント ID 番号です。

(7) アラートメッセージ

アラートメッセージ本体です。

アラートビューの操作

アラートビューの各フィールド名を示すバー

	受信時刻 ▲	発生時刻	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
--	--------	------	------	--------	--------	-------

の各項目を選択しアラートを並び替えることが可能です。

各フィールドを選択するごとに ▲ か ▼ のマークが表示されます。

マーク	意味
▲	アラートをそのフィールドに関しての昇順に並び替えます。
▼	アラートをそのフィールドに関しての降順に並び替えます。

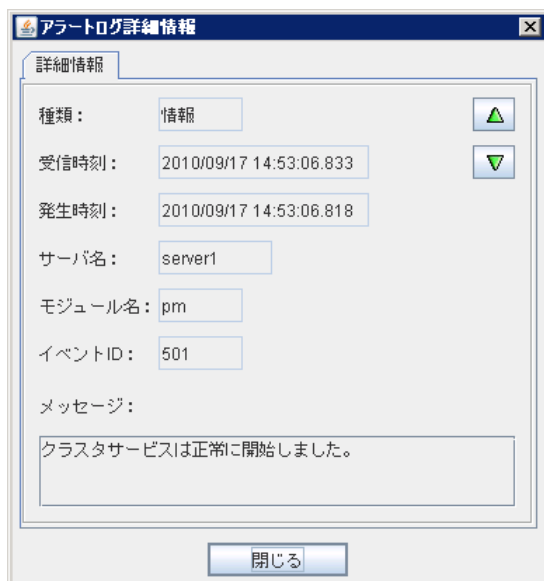
既定の状態では [発生時刻] について降順に並んでいます。

フィールド名の部分を左右にドラッグすることで、項目の表示順を変更することもできます。

また、このバーを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示する項目を選択することができます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。

種類	受信時刻 ▼	発生時刻	サーバ名
種類	2010/09/17 14:56:53.724	09/17 14:56:53.724	server1
受信時刻	2010/09/17 14:56:51.708	09/17 14:56:51.708	server1
発生時刻	2010/09/17 14:56:25.490	09/17 14:56:25.490	server1
サーバ名	2010/09/17 14:56:24.849	09/17 14:56:24.849	server1
モジュール名	2010/09/17 14:55:08.896	09/17 14:55:08.896	server1
イベントID	2010/09/17 14:55:08.880	09/17 14:55:08.880	server1
メッセージ	2010/09/17 14:55:05.786	09/17 14:55:05.786	server1
	2010/09/17 14:55:05.771	09/17 14:55:05.771	server1
	2010/09/17 14:54:48.583	09/17 14:54:48.583	server1

表示されているアラートをダブルクリックすると、以下の画面が表示され、アラートの詳細を確認することができます。



また、アラートを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示するアラートのタイプを選択できます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。



WebManager を手動で停止/開始する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール後、サーバ側の WebManager は OS の起動/停止と合わせて起動/停止するようになっています。

手動で停止/開始する場合、OS のサービス制御マネージャから、「CLUSTERPRO Manager」サービスを停止/開始してください。

WebManager を利用したくない場合

セキュリティの観点から WebManager を利用したくない場合、OS の [管理ツール] の [サービス]、または Builder の設定で WebManager が起動しないように設定してください。

[管理ツール] の [サービス] で設定する場合は、「CLUSTERPRO Manager」サービスの「スタートアップの種類」を「手動」に設定してください。

「クラスタのプロパティ」で WebManager の使用を設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 6 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

WebManager の接続制限、操作制限を設定する

WebManager の接続制限、操作制限は Builder の [クラスタのプロパティ] で設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 6 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

使用制限の種類

使用制限の方法は以下の 2 つがあります。

- ◆ クライアント IP アドレスによる接続制限
- ◆ パスワードによる制限

クライアント IP アドレスによる接続制限

WebManager に接続できるクライアントの WebManager での操作を、クライアント IP アドレスにより制限する機能です。

Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に IP アドレスを追加してください。

WebManager の接続制限の設定において、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に追加されていない IP アドレスから WebManager に接続しようとすると以下のエラーメッセージが表示されます。

Internet Explorer の場合



操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合、選択できるモードは参照モードのみになります。



操作制限を行うと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

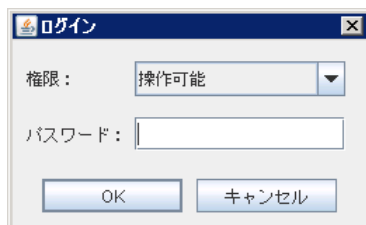
- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止
- ◆ 操作モードへの変更
- ◆ 設定モードへの変更
- ◆ 検証モードへの変更

パスワードによる制限

パスワードにより WebManager での参照や操作を制限する機能です。

Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[パスワードによって接続を制御する] の設定を行ってください。

WebManager のパスワード制限の設定において、パスワードを設定して WebManager に接続しようとするると以下の認証ダイアログ ボックスが表示されます。



[権限] で [操作可能] および [参照専用] を選択し正しいパスワードを入力すると、WebManager にログインできます。

- ◆ パスワード制限を設定していない場合は、認証ダイアログボックスは表示されません（認証なしにログインできます）
- ◆ パスワードを 3 回間違えると、WebManager にログインできません

参照専用の権限でログインした場合、WebManager は参照モードになります。この状態から操作モード、設定モード、検証モードへの変更操作を行うと、上記の認証ダイアログが表示され、操作可能なパスワードの入力を求められます。

使用制限の組み合わせ

IP アドレスによる制限機能とパスワードによる制限機能を併用した場合の操作制限は以下のようになります。

	パスワード制限		
クライアント IP アドレス制限	操作可能	参照専用	操作/参照不可 (認証失敗)
操作可能	操作可能	参照専用	使用不可
参照専用	参照専用*	参照専用	使用不可
接続不可	接続不可	接続不可	接続不可

*権限の選択で選べません。

セクション II コマンドリファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。本ガイドでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe に特化した説明を行っていますので、コマンドの全体像を理解する際は、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を合わせて参照してください。

- 第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリ ファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

• コマンドラインから操作する	54
• コマンド一覧.....	54
• 状態を表示する (clpstat コマンド)	56
• サービスを操作する (clpci コマンド).....	59
• サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	63
• グループを操作する (clpgrp コマンド)	64
• ログを収集する (clplogcc コマンド).....	67
• 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド).....	72
• タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド).....	78
• ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド).....	81
• メッセージを出力する (clplogcmd コマンド).....	89
• モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	91
• グループリソースを制御する (clprscコマンド).....	95
• CPUクロックを制御する (clpcpufreq コマンド)	97
• クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	99
• 再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)	103
• リソース使用量を予測する (clpprerコマンド)	105

コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や WebManager が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、WebManager で行える以上の種類の操作を行うことができます。

注: モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- ◆ サービスの停止/サスペンド
- ◆ グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

コマンド一覧

構築関連		
コマンド	説明	ページ
clpcfctrl.exe	Builder で作成した構成情報をサーバに反映します。 Builderで使用するために構成情報をバックアップします。	72
状態表示関連		
コマンド	説明	ページ
clpstat.exe	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	56
操作関連		
コマンド	説明	ページ
clpcl.exe	サービスの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。	59
clpstdn.exe	サービスを停止し、サーバをシャットダウンします。	63
clpgrp.exe	グループの起動、停止を実行します。	64
clptoratio.exe	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	78
clpmonctrl.exe	モニタリソースの一時停止/再開を行います。	91
clprsc.exe	グループリソースの一時停止/再開を行います。	95
clpcpufreq.exe	CPUクロックの制御を行います。	97

clprexec.exe	サーバへ処理実行を要求します。	99
clpregctrl.exe	再起動回数制限の制御を行います。	103
ログ関連		
コマンド	説明	ページ
clplogcc.exe	ログ、OS情報等を収集します。	67
clplogcf.exe	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	81
スクリプト関連		
コマンド	説明	ページ
clplogcmd.exe	スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	89
重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。		
システム監視関連 (System Resorce Agent を使用している場合のみ)		
コマンド	説明	ページ
clpprer.exe	与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。	105

状態を表示する (clpstat コマンド)

clpstat CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat -s [--long]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [<grpname>] [--detail]
clpstat --rsc [<rscname>] [--detail]
clpstat --mon [<monname>] [--detail]
```

説明 CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。

オプション	-s または オプションなし	状態を表示します。
	--long	クラスタ名 やリソース名などの名前を最後まで表示します。
	-g	グループを表示します。
	-m	各モニタリソースの状態を表示します。
	-i	全体の設定情報を表示します。
	--cl	設定情報を表示します。
	--sv	サーバの設定情報を表示します。
	--grp [<grpname>]	グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。
	--rsc [<rscname>]	グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。
	--mon [<monname>]	モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。
	--detail	このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考 設定情報表示オプションは組み合わせによって、様々な形式で情報

表示をすることができます。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。本コマンドを実行するサーバは CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。

オプションを指定しない場合と -s オプションを指定する場合は、クラスタ名やリソース名などの名前が途中でしか出力されません。

表示例 表示例は次のトピックで説明します。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。

Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
---	--------------------------------------

サービス进行操作する (clpcl コマンド)

clpcl CLUSTERPRO サービス进行操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s
clpcl -t [-w <timeout>]
clpcl -r [-w <timeout>]
clpcl --return
clpcl --suspend [--force] [-w <timeout>]
clpcl --resume
```

説明 CLUSTERPRO サービスの起動、停止、復帰、サスペンド、リジュームなどを実行します。

オプション	-s	CLUSTERPRO サービスを起動します。
	-t	CLUSTERPRO サービスを停止します。
	-r	CLUSTERPRO サービスを再起動します。
	--return	CLUSTERPRO サービスを復帰します。
	--suspend	CLUSTERPRO サービスをサスペンドします。
	--resume	CLUSTERPRO サービスをリジュームします。
	-w <timeout>	-t、-r、--suspend オプションの場合にのみ clpcl コマンドが CLUSTERPRO サービスの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を秒単位で指定します。 Timeout の指定がない場合、無限に待ち合わせを行います。 Timeout に "0" を指定した場合、待ち合わせを行いません。 -w オプションを指定しない場合(デフォルト)は、 ハートビートタイムアウト × 2 秒の間、待ち合わせを行います。
	--force	--suspend オプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

- 備考** 本コマンドを `-s` または `--resume` オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。
`-t` または `--suspend` オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。
`-r` オプションで実行した場合、対象のサーバで CLUSTERPRO デーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。
- CLUSTERPRO デーモンの起動またはリジュームの状況は `clpstat` コマンドで確認してください。
- 注意事項** 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
 サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。
 リジュームを実行する場合は、`clpstat` コマンドを用いて CLUSTERPRO サービスが起動していないかを確認してください。

◆ サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO サービスを停止させることができます。この状態を**サスペンド**といいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることを**リジューム**といいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO サービスが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。（起動、停止）
- WebManager および `clpstat` コマンドでの状態の表示または操作ができなくなります。
- 以下のコマンドが使用不可となります。
 - `clpstat`
 - `clpci` の `-resume` 以外のオプション
 - `clpstdn`
 - `clpgrp`
 - `clprsc`
 - `clptoratio`
 - `clpmonctrl`

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster service.	停止している CLUSTERPRO サービスに対して停止処理を実行しました。

メッセージ	原因/対処法
Performed startup processing to the active cluster service.	起動している CLUSTERPRO サービスに対して起動処理を実行しました。
Command timeout.	コマンドがタイムアウトしました。
Failed to return the server. Check the status of failed server.	サーバの復帰に失敗しました。処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to obtain the service name.	サービス名の取得に失敗しました。
Failed to operate the service.	サービスの制御に失敗しました。
Resumed the cluster service that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO サービスに対して、リジューム処理を実行しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster service is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster service is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが起動しているサーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster service needs to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全てのサーバで、CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバがあるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、 処理に失敗したサーバが存在します。 処理に失敗したサーバの 状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

clpstdn サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

clpstdn [-r]

説明 サーバの CLUSTERPRO サービスを停止し、シャットダウンします。

オプション オプションなし サーバのシャットダウンを実行します。
-r サーバのシャットダウンリブートを実行します。

戻り値 0 成功
0 以外 異常

備考 本コマンドは、グループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻します。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

59 ページの「サービス进行操作する (clpcl コマンド)」を参照してください。

グループを操作する (clpgrp コマンド)

clpgrp グループを操作します。

コマンドライン

clpgrp -s [<grpname>]

clpgrp -t [<grpname>]

説明 グループの起動、停止を実行します。

オプション -s [<grpname>] グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。

 -t [<grpname>] グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

戻り値 0 成功

 0 以外 異常

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

 CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration data. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。

メッセージ	原因/対処法
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you move the group.	グループを起動、停止、移動する先のサーバが不正です。 正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループを起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループが存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f option.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを自サーバで起動/停止させたい場合は、グループの移動を実行するか、[-f] オプションを加えて実行してください。
The group has already been stopped.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to start one or more resources. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more resources. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。 クラスタの状態を確認してください。
Log in as administrator.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to migrate the group.	[-l] オプションの場合は、指定されたグループのタイプが、マイグレーションが可能な、仮想マシンタイプであるか確認してください。

メッセージ	原因/対処法
The specified group cannot be migrated.	グループの状態を確認してください。
The specified group is not vm group.	グループのタイプが仮想マシンに設定されているか確認してください。
Migration resource does not exist.	グループに仮想マシンリソースが存在していることを確認してください。
Migration resource is not online.	仮想マシンリソースが起動しているか確認してください。
Server is not in a condition to start group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。
There is no appropriate destination for the group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。

ログを収集する (clplogcc コマンド)

clplogcc ログを収集します。

コマンドライン

clplogcc [-t *collect_type*] [-o *path*]

説明 ログ、OS 情報等を収集します。

オプション なし ログを収集します。

 -t *collect_type* ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは type1 です。

 -o *path* 収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

戻り値 0 成功

 0 以外 異常

備考 ログファイルは cab で圧縮されているので、cab を解凍可能なアプリケーションを利用して解凍してください。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

 データ転送サービスが起動されていることを確認してください。

 ログファイルサイズが 2GB を超えた場合、圧縮形式の仕様によりログ収集に失敗します。収集対象のログを調整するか、ログ収集パターンを変更してください。

実行結果 本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Preparing	初期化中
Connecting	サーバ接続中
Compressing	ログファイル圧縮中
Transmitting	ログファイル送信中
Disconnecting	サーバ切断中
Completion	ログ収集完了

実行結果(サーバ状態)については以下になります。

実行結果(サーバ状態)	説明
Normal	正常終了しました。
Canceled	ユーザによってキャンセルされました。
Invalid Parameters	パラメータ不正です。
Compression Error	圧縮エラーが発生しました。
Communication Error	送信エラーが発生しました。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
No Free Space	ディスクに空き容量がありません。
File I/O Error	ファイルI/Oエラーが発生しました。
Unknown Error	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。
Specifiable number of servers is the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、クラスタ構成可能な最大サーバ数です。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to collect log.	ログ収集が失敗しました。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 4 までを指定します。

	type1	type2	type3	type4
(1) デフォルト収集情報	○	○	○	×
(2) イベントログ	○	○	○	○

(3) ワトソンログ	○	○	○	○
(4) ユーザダンプ	○	○	×	×
(5) 診断プログラムレポート	○	○	×	×
(6) レジストリ	○	○	○	×
(7) スクリプト	○	○	○	×
(8) ESM/PRO/AC、ESM/PRO/UPSC のログ	○	○	○	×
(9) HA ログ	×	○	×	×

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例: 収集タイプ type2 でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは type1 です。

デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
- CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報 (dir)
 - Bin 配下
 - alert¥bin、webmgr¥bin 配下
 - %SystemRoot%¥system32¥drivers 配下
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報
- OS 情報
- アップデートログ
- CPU ライセンスおよびノードライセンス
- 設定ファイル
- ポリシーファイル
- 共有メモリのダンプ
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
- ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
- メモリ使用状況 (mem の実行結果 (IA32 版の場合のみ))
- プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
- ipconfig (ipconfig の実行結果)

イベントログ

- アプリケーションログ (AppEvent.Evt)
- システムログ (SysEvent.Evt)

ワトソンログ / Windows エラーレポート

- drwtsn32.log (Windows Server 2003 の場合)
- ***.wer (Windows Server 2008 の場合)

ユーザダンプ

- user.dmp (Windows Server 2003 の場合)
- ***.hdmp (Windows Server 2008 の場合)
- ***.mdmp (Windows Server 2008 の場合)

診断プログラムレポート

- msinfo32.exe コマンドの実行結果

レジストリ

- CLUSTERPRO サーバのレジストリ情報
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥Alert
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥MirrorList
 - HKLM ¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥RC

- HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥VCOM
- Diskfilt のレジストリ情報
- OS のレジストリ情報
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Disk
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥DOS Devices
 - HKLM¥SYSTEM¥MountedDevices
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Enum¥SCSI
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Enum¥STORAGE
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥symc8xx

スクリプト

Builder で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプトを指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSC のログ

acupslog.exe コマンドの実行により収集されるファイル

HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ◆ ファイル名は、「サーバ名-log.cab」で保存されます。
- ◆ ログファイルは cab で圧縮されているので、cab を解凍可能なアプリケーションを利用して解凍してください。

-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ C:¥tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o C:¥tmp
```

緊急OSシャットダウン時の情報採取

CLUSTERPRO サービスが、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合に、OS のリソース情報を採取します。

採取する情報は以下です。

- ◆ コマンド実行による情報
 - ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
 - ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
 - メモリ使用状況 (mem の実行結果 (IA32 版の場合のみ))
 - プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Windows 操作ガイド

- ipconfig (ipconfig の実行結果)

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

構成情報を反映する (clpcfctrl --push)

clpcfctrl --push 構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

```
clpcfctrl --push - [l|w] [-x <path>] [-p <portnumber>] [--nocheck]
```

説明 Builder で作成した構成情報をサーバに反映します。

オプション	--push	反映時に指定します。 省略できません。
	-x	指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。
	-w	構成情報ファイルの文字コードが SJIS であることを示します。 通常は本オプションを省略可能です。 -l と同時に指定することはできません。
	-l	構成情報ファイルの文字コードが EUC であることを示します。 -w と同時に指定することはできません。
	-p	データ転送ポートのポート番号を指定します。 省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
	--nocheck	変更を反映させるために必要な操作のチェックを行わずに配信します。配信した構成情報を反映させるためには必要に応じた操作を手動で実行する必要があります。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

注意事項 本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。

構成情報反映時に、現在の構成情報と反映予定の構成情報を比較します。

構成内容に変更がある場合は、以下のメッセージが出力されます。メッセージの指示に従い、サービス操作 / グループ操作を行ってから、再度本コマンドを実行してください。

メッセージ	対処法
Please stop CLUSTERPRO Server.	サーバを停止してください。
Please suspend CLUSTERPRO Server.	サーバをサスペンドしてください。
Please stop the following groups.	設定を変更したグループを停止してください。
Reboot of a cluster is necessary to reflect setting.	設定を反映するには、クラスタシャットダウン・リブートを実行してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Web Alert service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Web アラートサービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Manager service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Manager サービスを再起動してください。
Start of a cluster is necessary to reflect setting.	初回構築時のメッセージです。クラスタ開始を実行してください。

--nocheck オプションは保守手順などの特別な用途においてのみ使用します。通常の操作では使用しないでください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if -push or -pull option is specified.	[--push] を指定しているか確認してください。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data	[-h] で指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名または IP アドレスが正しいか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。

メッセージ	原因/対処法
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get the list of node. Check if the server specified by -c is a member of the cluster.	[-c] で指定したサーバがクラスタのメンバかどうか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to upload the configuration file. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Canceled to deliver the configuration file since it failed to connect to one or more server. If you want to deliver the configuration file to servers that can be connected, run the command again with "-force" option.	構成情報の配信を中止しました。接続に失敗したサーバがあります。もし接続可能なサーバのみ構成情報を配信したい場合は、[--force] オプションを用いて再度コマンドを実行してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	
Failed to change the directory.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to copy the file.	
Failed to create the mutex.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	

メッセージ	原因/対処法
Failed to check server property. Check if the server name or ip addresses are correct by builder.	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。
Please stop the following resources.	設定を変更したリソースを停止してください。

構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

clpcfctrl --pull 構成情報をバックアップします。

コマンドライン

```
clpcfctrl --pull - [l|w] [-x <path>] [-p <portnumber>]
```

説明 Builder で使用するために構成情報をバックアップします。

オプション	--pull	バックアップ時に指定します。 省略できません。
	-x	指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。
	-w	構成情報を文字コード SJIS で保存します。 -l と同時に指定することはできません。 -l と -w の両方を省略することはできません。
	-l	構成情報を文字コード EUC で保存します。 -w と同時に指定することはできません。 -l と -w の両方を省略することはできません。
	-p	データ転送ポートのポート番号を指定します。 省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

注意事項 本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if -push or -pull option is specified.	[-pull] を指定しているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if	メモリ不足または OS のリソース不足が

メッセージ	原因/対処法
memory or OS resources are sufficient.	考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	
Failed to change the directory.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to write the file.	
Failed to copy the file.	
Failed to create the mutex.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	

タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)

clptoratio

現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

コマンドライン

```
clptoratio -r <ratio> -t <time>
clptoratio -i
clptoratio -s
```

説明

以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- アラート同期サービス
- WebManager サービス

現在のタイムアウト倍率を表示します。

オプション

-r <i>ratio</i>	タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は 10000 倍です。
-t <i>time</i>	「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。 延長期間を指定します。 分 m、時間 h、日 d が指定できます。最大延長期間は 30 日です。 例) 2m、3h、4d
-i	変更したタイムアウト倍率を元に戻します。
-s	現在のタイムアウト倍率を参照します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

サーバのシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

モニタリソースタイムアウト# clpstat --mon モニタリソース名
--detail

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.1 for Windows 操作ガイド

タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。

延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。

実行例

例 1:タイムアウト倍率を 3 日間 2 倍にする場合

```
# clptoratio -r 2 -t 3d
```

例 2:タイムアウト倍率を元に戻す場合

```
# clptoratio -i
```

例 3:現在のタイムアウト倍率を参照する場合

```
# clptoratio -s
present toratio : 2
```

現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で倍率を指定してください。
Set the correct extension period. Ex) 2m, 3h, 4d	正しい延長期間の設定をしてください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	最大延長期間を超えない範囲で延長期間を設定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。 クラスタ内のサーバの状態を確認してください。クラスタ内の全てのサーバが起動した状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)

clplogcf ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

コマンドライン

```
clplogcf -t <type> -l <level> -s <size>
```

説明 ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。
現在の設定値を表示します。

オプション	-t	設定を変更するモジュールタイプを指定します。 -l と -s のいずれも省略した場合は、指定したモジュールタイプに設定されている情報を表示します。指定可能なタイプは「-t オプションに指定可能なタイプ」の表を参照してください。
	-l	ログレベルを指定します。 指定可能なログレベルは以下のいずれかです。 1、2、4、8、16、32 数値が大きいほど詳細なログが出力されます。
	-s	ログを出力するファイルのサイズを指定します。 単位は byte です。
	なし	現在設定されている全情報を表示します。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考 CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 2 つのログファイルを使用します。このため -s で指定したサイズの 2 倍のディスク容量が必要です。

注意事項 本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。
本コマンドの実行には CLUSTERPRO Event サービスが動作している必要があります。
サーバを再起動すると変更した設定は元に戻ります。

実行例 **例 1:pm のログレベルを変更する場合**
 # clplogcf -t pm -l 8

例 2:pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
TYPE, LEVEL, SIZE
pm, 8, 1000000
```

例 3:現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
TYPE, LEVEL, SIZE
trnsv, 4, 1000000
xml, 4, 1000000
logcf, 4, 1000000
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。
Invalid level.	指定したレベルが不正です。
Invalid size.	指定したサイズが不正です。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print current configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。

[-t] オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
alert	clpaltinsert.exe	アラート
apicl	clpapicl.dll	API クライアントライブラリ
apisv	clpapisv.dll	API サーバ
appli	clpappli.dll	アプリケーションリソース
appliw	clpappliw.dll	アプリケーション監視リソース
armdrive	armdrive.exe	ドライブ文字設定コマンド
bwctrl	clpbwctrl.exe	クラスタ起動同期待ち処理制御コマンド
cfctrl	clpcfctrl.exe	クラスタ生成、クラスタ情報バックアップコマンド
cl	clpcl.exe	クラスタ操作コマンド
clpdnld	clpdnld.exe	ダウンローダ
clpgetsvstat	clptrnsv.exe	トランザクションサーバ
clpshmstat	clpshmstat.dll	ノードステータス管理ライブラリ
clsv	clpclsv.dll	クライアントサービス
commcl	clpcommcl.dll	汎用通信クライアントライブラリ
cpufreq	clpcpufreq.exe	CPU クロック制御コマンド
diskperf	clpdiskperf.dll	ディスクパフォーマンスログ出力用ライブラリ

タイプ	モジュール	説明
diskutil	clpdiskutil.dll	ミラーディスク/ディスク共通ライブラリ
diskw	clpdiskw.dll	ディスク RW 監視リソース
down	clpdown.exe	サーバシャットダウンコマンド
event	clpevent.dll	イベントログ
exping	clpexpng.dll	PING 実行管理
genw	genw.dll	カスタム監視リソース
grp	clpgrp.exe	グループ起動、停止、移動、マイグレーションコマンド
hblog	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
ipw	clpipw.dll	IP 監視リソース
lankhb	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
lcns	clplcns.dll	ライセンスライブラリ
logc	clplogc.dll	ログ収集ライブラリ
logcc	clplogcc.exe	ログ収集コマンド
logcf	clplogcf.exe	ログレベル、サイズ変更コマンド
logcmd	clplogcmd.exe	アラート出カコマンド
mail	clpmail.exe	Mail 通報
mgmtmib	clpmgmtmib.dll	SNMP 連携ライブラリ
miiw	clpmiiw.dll	NIC Link Up/Down 監視リソース
monctrl	clpmonctrl.exe	モニタリソース制御コマンド
mrw	clpmrw.dll	外部連携監視リソース
mtw	clpmtw.dll	マルチターゲット監視リソース
nm	clpnm.exe	ノードマップ管理
oldapi	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_cnf	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_evt	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_if	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_sts	clpoldapi.exe	互換 API
pm	clppm	プロセス管理
pmsvc	clppmsvc.exe	プロセス管理
psw	clppsw.dll	プロセス名監視リソース
ptun	clpptun.dll	パラメータチューニング
ptunlib	clpptun.dll	パラメータチューニング
rc	clprc.exe	グループ、グループリソース管理
rc_ex	clprc.exe	グループ、グループリソース管理
regctrl	clpregctrl.exe	再起動回数制御コマンド
resdllc	clpresdllc.dll	リソース制御ライブラリ

タイプ	モジュール	説明
rm	clprm.dll	モニタ管理
script	clpscript.dll	スクリプトリソース
scrpc	clpscrpc.exe	スクリプト
scrpl	clpscrpl.exe	スクリプト
sem	clpsem.dll	セマフォライブラリ
service	clpservice.dll	サービスリソース
servicew	clpservicew.dll	サービス監視リソース
shmcm	clpshmcm.dll	共有メモリアイブラリ
shmevt	clpshmevt.dll	イベントライブラリ
shmnrm	clpshmnrm.dll	共有メモリアイブラリ
shmrnrm	clpshmrnrm.dll	共有メモリアイブラリ
snmpmgr	clpsnmpmgr.dll	SNMP トラップ受信ライブラリ
startup	clpstartup.exe	スタートアップ
stat	clpstat.exe	ステータス表示コマンド
stdn	clpstdn.exe	クラスタシャットダウンコマンド
toratio	clptoratio.exe	タイムアウト倍率変更コマンド
trap	clptrap.exe	SNMP トラップ送信コマンド
trncl	clptrncl.dll	トランザクションライブラリ
trnreq	clptrnreq.exe	クラスタ間処理要求コマンド
rexec	clprexec.exe	外部監視連動処理要求コマンド
trnsrv	clptrnsrv.exe	トランザクションサーバ
webalert	clpaltd.exe	アラート同期
webmgr	clpwebmc.exe	WebManager
xml	xlpxml.dll	XML ライブラリ
vm	clpvm.dll	仮想マシンリソース
vmw	clpvmw.dll	仮想マシン監視リソース
vmctrl	clpvmctrl.dll	VMCTRL ライブラリ

ログレベル・ログファイルサイズの既定値

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
alert	4	1000000
apicl	4	5000000
apisv	4	5000000
appli	4	1000000
appliw	4	1000000
armdrive	4	1000000
bwctrl	4	1000000
cfctrl	4	1000000
cl	4	1000000
clpdnld	4	1000000
clpgetsvstat	4	1000000
clpshmstat	4	1000000
clsv	4	1000000
cpufreq	4	1000000
commcl	4	80000000
diskperf	8	2000000
diskutil	4	1000000
diskw	4	1000000
down	4	1000000
event	4	1000000
exping	4	1000000
genw	4	1000000
grp	4	1000000
hblog	4	1000000
ipw	4	1000000
lankhb	4	1000000
lcns	4	1000000
logc	4	1000000
logcc	4	1000000
logcf	4	1000000
logcmd	4	1000000
mail	4	1000000
mgtmib	4	1000000
miiw	4	1000000
monctrl	4	1000000
mrw	4	1000000
mtw	4	1000000

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
nm	4	2000000
oldapi	4	1000000
oldapi_cnf	4	1000000
oldapi_evt	4	1000000
oldapi_if	4	1000000
oldapi_sts	4	1000000
pm	4	1000000
pmsvc	4	2000000
psw	4	1000000
ptun	4	1000000
ptunlib	4	1000000
rc	4	5000000
rc_ex	4	5000000
regctrl	4	1000000
resdllc	4	2000000
rm	4	5000000
script	4	1000000
scrpc	4	1000000
scrpl	4	1000000
sem	4	1000000
service	4	1000000
servicew	4	1000000
shmcm	4	1000000
shmevt	4	1000000
shnmn	4	1000000
shrm	4	1000000
snmpmgr	4	1000000
startup	4	1000000
stat	4	1000000
stdn	4	1000000
toratio	4	1000000
trap	4	1000000
trncl	4	2000000
trnsv	4	2000000
trnreq	4	1000000
rexec	4	1000000
webalert	4	1000000
webmgr	4	1000000

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
xml	4	1000000
vm	4	1000000
vmw	4	1000000
vmctrl	4	1000000
	合計	252000000 * 2

監視オプション製品で [-t] オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
db2w	clp_db2w.dll	DB2 監視 (Database Agent)
ftpw	clp_ftpw.dll	FTP 監視 (Internet Server Agent)
httpw	clp_httpw.dll	HTTP 監視 (Internet Server Agent)
imap4w	clp_imap4w.dll	IMAP4 監視 (Internet Server Agent)
jra	clpjrasvc.exe	JVM監視リソース (Java Resource Agent)
jraw	clpjraw.dll	JVM監視リソース (Java Resource Agent)
odbcw	clp_odbcw.dll	ODBC 監視 (Database Agent)
oracleasw	clp_oracleasw.dll	OracleAS 監視 (Application Server Agent)
oraclew	clp_oraclew.dll	Oracle 監視 (Database Agent)
oscw	clposcw.dll	VB Corp CL 監視 (Anti-Virus Agent)
ossw	clpossw.dll	VB Corp SV 監視 (Anti-Virus Agent)
otxw	clp_otxw.dll	WebOTX 監視 (Application Server Agent)
pop3w	clp_pop3w.dll	POP3 監視 (Internet Server Agent)
psqlw	clp_psqlw.dll	PostgreSQL 監視 (Database Agent)
smtpw	clp_smtpw.dll	SMTP 監視 (Internet Server Agent)
sqlserverw	clp_sqlserverw.dll	SQL Server 監視 (Database Agent)
sra	clpsraserviceproc.exe	システム監視リソース (System Resource Agent)
sraw	clpsraw.dll	システム監視リソース (System Resource Agent)
tuxw	clp_tuxw.dll	Tuxedo 監視 (Application Server Agent)
wasw	clp_wasw.dll	Websphere 監視 (Application Server Agent)
wls	clp_wls.dll	Weblogic 監視 (Application Server Agent)

監視オプション製品のログレベル・ログファイルサイズの既定値

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
db2w	4	1000000
ftpw	4	1000000
httpw	4	1000000
imap4w	4	1000000

jra	4	1000000
jraw	4	1000000
odbcw	4	1000000
oracleasw	4	1000000
oraclew	4	1000000
oscw	4	1000000
ossw	4	1000000
otxw	4	1000000
pop3w	4	1000000
psqlw	4	1000000
smtpw	4	1000000
sqlserverw	4	1000000
sra	8	1000000
sraw	4	1000000
tuxw	4	1000000
wasw	4	1000000
wlsw	4	1000000
	合計	21000000 * 2

メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

clplogcmd 指定した文字列を alert に登録するコマンドです。

コマンドライン

```
clplogcmd -m message [-i ID] [-l level]
```

注: 通常の構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。スクリプトリソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

説明 スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

メッセージは以下の形式で出力されます。

[ID] message

オプション -m message 出力する文字列を message に指定します。省略できません。Message の最大サイズは 498 バイトです。

文字列には英語、数字、記号¹が使用可能です。

-i ID メッセージ ID を指定します。

このパラメータは省略可能です。

省略時には ID に 1 が設定されます。

-l level 出力するアラートのレベルです。ERR、WARN、INFO のいずれかを指定します。このレベルによって WebManager でのアラートビューのアイコンを指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には level に INFO が設定されます。

詳細は「第 1 章 WebManager の機能」の「WebManager でアラートを確認する」を参照してください。

戻り値 0 成功
0 以外 異常

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
-i オプションの仕様は Linux 版とは異なります。Windows 版ではアラートに出力されるイベント ID は固定で、変更することはできません。


実行例

例 1: メッセージのみ指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、alert に文字列を出力します。

```
clplogcmd -m test1
```

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。


	受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
	2006/06/29 18:21:27.515	2006/06/29 18:21:27.343	server1	logcmd	3601	[1] test1

例 2: メッセージ、メッセージ ID、レベルを指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、alert に文字列を出力します。

```
clplogcmd -m test2 -i 100 -l ERR
```

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。

	受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
	2006/06/29 19:07:58.401	2006/06/29 19:07:58.229	server1	logcmd	3601	[100] test2

¹ 文字列に記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

“” で囲む必要がある記号

& | < >

(例 “&” をメッセージに指定すると、& が出力されます。)

¥ を前につける必要がある記号

¥

(例 ¥¥ をメッセージに指定すると、¥ が出力されます。)

◆ 文字列にスペースを含む場合、“” で囲む必要があります。

モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

clpmonctrl モニタリソースの制御を行います。

コマンドライン:

```
clpmonctrl -s [-m resource name ...] [-w wait time]
clpmonctrl -r [-m resource name ...] [-w wait time]
clpmonctrl -c [-m resource name ...]
clpmonctrl -v [-m resource name ...]
clpmonctrl -e -m resource_name
clpmonctrl -n [-m resource_name]
```

説明 モニタリソースの一時停止/再開を行います。

オプション	-s, --suspend	監視を一時停止します。
	-r, --resume	監視を再開します。
	-c, --clear	回復動作の回数カウンタをリセットします。
	-v, --view	回復動作の回数カウンタを表示します。
	-e, --error	障害検証機能を有効にします。必ず -m オプションで監視リソース名を指定してください。
	-n, --normal	障害検証機能を無効にします。-m オプションで監視リソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象となります。-m オプションを省略した場合は、全監視リソースが対象となります。
	-m, --monitor	制御するモニタリソースを単数または、複数で指定します。 省略可能で、省略時は全てのモニタリソースに対して制御を行います。
	-w, --wait	モニタリソース単位で監視制御を待合わせます。(秒) 省略可能で、省略時は 5 秒が設定されます。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	オプション不正
	3	初期化エラー
	4	構成情報不正
	5	モニタリソース未登録
	6	指定モニタリソース不正
	10	CLUSTERPRO 未起動状態

11	CLUSTERPRO サービスサスペンド状態
90	監視制御待ちタイムアウト
128	二重起動
255	その他内部エラー

備考 既に一時停止状態にあるモニタリソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にあるモニタリソースに再開を行った場合は、本コマンドは正常終了し、モニタリソース状態は変更しません。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
モニタリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManager で確認してください。

clpstat コマンドまたは、WebManager でモニタリソースの状態が "起動済" または、"一時停止" であることを確認後、実行してください。

監視タイミングが「活性時」のモニタリソースで対象リソースが活性状態の時に一時停止し、その後対象リソースの活性または、対象リソースの所属するグループの活性を行った場合、一時停止中のモニタリソースは監視を開始しないため異常を検出することはできません。

例えば、以下の場合が該当します。

1. アプリケーションリソースを監視しているアプリケーション監視を一時停止する。
2. アプリケーションリソースまたは、アプリケーションリソースが所属するグループを再活性する。

上記は、手動による再活性を意味していますが監視異常時の回復動作による再活性も同様の動作となります。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-v オプションで表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」の実行回数が表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する：有効
- 最終動作："何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
You are not authorized to run the command. Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。 Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	モニタリソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information by using the Builder.	指定されたモニタリソースは、登録されていません。 Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster service by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster service has been suspended. Check activation status of the cluster service by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO サービスは、サスペンド状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
Waiting for synchronization of the cluster... The cluster is waiting for synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタは、同期待ち状態です。 クラスタ同期待ち完了後、再度実行してください。
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1is not registered, but continues processing. Check the cluster configuration data by using the Builder. %1: monitor resource name	指定されたモニタリソース中に登録されていないモニタリソースがありますが、無視して処理を続けます。 Builder でクラスタ構成情報を確認してください。 %1 : モニタリソース名
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。タスクマネージャなどで実行状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
appliw	○	○	○
diskw	○	○	○
ipw	○	○	○
miiw	○	○	○
mtw	○	○	○
servicew	○	○	○
genw	○	○	○
vmw	○	○	×
mrw	○	○	×
db2w	○	○	○
ftpw	○	○	○
httpw	○	○	○
imap4w	○	○	○
odbcw	○	○	○
oraclew	○	○	○
oracleasw	○	○	○
oscw	○	○	○
ossw	○	○	○
pop3w	○	○	○
psqlw	○	○	○
smtpw	○	○	○
sqlserverw	○	○	○
tuxw	○	○	○
wasw	○	○	○
wls	○	○	○
otxw	○	○	○
jraw	○	○	○
sraw	○	○	○
psw	○	○	○

グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

clprsc グループリソースの制御を行います。

コマンドライン:

clprsc -s *resource_name* [-f]

clprsc -t *resource_name* [-f]

説明 グループリソースを起動 / 停止します。

オプション

-s	グループリソースを起動します。
-t	グループリソースを停止します。
-f	グループリソース起動時は、指定したグループリソースが依存する全グループリソースを起動します。 グループリソース停止時は、指定したグループリソースに依存している全グループリソースを停止します。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManager で確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。

メッセージ	原因/対処
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中のため、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループリソースを起動させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループリソースが存在するか確認してください。
The group resource has already been started on the local server.	WebManagerや、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
The group resource has already been started on the other server. To start the group resource on the local server, stop the group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースをローカルサーバで起動するには、グループを停止してください。
The group resource has already been stopped.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Depending resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済でないため、グループリソースを停止できません。依存しているグループリソースを停止するか、[-f] オプションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済でないため、グループリソースを起動できません。依存しているグループリソースを起動するか、[-f] オプションを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Server is not in a condition to start resource. Critical monitor error is detected.	サーバの状態を確認してください。

CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)

clpcpufreq CPUクロックの制御を行います。

コマンドライン:

clpcpufreq --high

clpcpufreq --low

clpcpufreq -i

clpcpufreq -s

説明 CPU クロック制御による省電力モードの有効化/無効化を制御します。

オプション	--high	CPU クロック数を最大にします。
	--low	CPU クロック数を下げて省電力モードにします。
	-i	CPU クロックの制御を CLUSTERPRO X SingleServerSafe に戻します。
	-s	現在の設定状態を表示します。
		<ul style="list-style-type: none"> • high クロック数を最大にしています。 • low クロック数を下げて省電力モードにしています。

戻り値	0	正常終了
	0 以外	異常終了

備考 「クラスタのプロパティ」の省電力の設定で、「CPU クロック制御機能を使用する」にチェックを入れていない場合、本コマンドを実行するとエラーとなります。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CPU クロック制御機能を使用する場合、BIOS の設定でクロックの変更が可能になっていることと、CPU が Windows OS の電源管理機能によるクロック制御をサポートしていることが必要となります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Invalid mode. Check if --high or --low or -i or -s option is specified.	[--high], [--low], [-i], [-s] いずれかのオプションが指定されているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 クラスタが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Failed to acquire CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 クラスタが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)

clprexec CLUSTERPRO がインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

```
clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
clprexec --notice [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout]
      [-o logfile_path]
clprexec --clear [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout]
      [-o logfile_path]
```

説明 従来の clptrnreq コマンドに外部監視から CLUSTERPRO サーバへ処理要求を発行する機能 (異常発生通知) などを追加したコマンドです。

オプション	--script script_name	<p>スクリプト実行要求を行います。</p> <p>script_name には、実行するスクリプト (シェルスクリプトや実行可能ファイル等) のファイル名を指定します。</p> <p>スクリプトは -h で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールディレクトリ配下の work / rexec ディレクトリ配下に作成しておく必要があります。</p>
	--notice	<p>CLUSTERPRO サーバへ異常発生通知を行います。</p> <p>mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。</p>

	--clear	<p>外部連携監視リソースのステータスを "異常" から "正常" へ変更する要求を行います。</p> <p>mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。</p>
	-h IP Address	<p>処理要求発行先の CLUSTERPRO サーバの IP アドレスを指定してください。</p> <p>カンマ区切りで複数指定可能、指定可能な IP アドレス数は 32 個です。</p> <p>※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。</p>
	-k category[keyword]	<p>[--notice] または [--clear] オプションを指定する場合、[category] に外部連携監視リソースに設定しているカテゴリを指定してください。</p> <p>外部連携監視リソースのキーワードを指定する場合は、[category] のあとにピリオド区切りで指定してください。</p>
	-p port_number	<p>ポート番号を指定します。</p> <p>port_number に処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。</p> <p>本オプションを省略した場合、デフォルト 29002 を使用します。</p>
	-o logfile_path	<p>logfile_path には、本コマンドの詳細ログを出力するファイル path を指定します。</p> <p>ファイルにはコマンド 1 回分のログが保存されます。</p> <p>※ CLUSTERPRO がインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。</p>
	-w timeout	<p>コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト 180 秒です。</p> <p>5～999 まで指定可能です。</p>
戻り値	0	正常終了
	0 以外	異常終了
注意事項	clprexec コマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPRO サーバ側で実行させたい異常時動作を設定した外部	

連携監視リソースを登録/起動しておく必要がある。

コマンド実行時に、コマンドのバージョンを標準出力する。

--script オプションで指定された文字列に "¥"、"/" または ".." が含まれているかどうかのチェックを行う。(相対path指定をNGとするため)

-h オプションで指定する IP アドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。

- = CLUSTERPRO X3.0 以降がインストールされていること
- = CLUSTERPRO 起動していること
- = mrw が設定 / 起動されていること
- = TransactionServer が起動していること

実行例

例1: CLUSTERPRO サーバ1 (10.0.0.1) に対して、スクリプト (script1.sh) 実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.bat -h 10.0.0.1
```

例2: CLUSTERPRO サーバ1 (10.0.0.1) に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1 設定 監視タイプ : earthquake、監視対象 : scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/ lprexec.log
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3 -w 30 -p /tmp/clprexec/clprexec.log
```

例3: CLUSTERPRO サーバ1 (10.0.0.1) に対して mrw1 のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrw1 の設定 監視タイプ : earthquake、監視対象 : scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrw1 -h 10.0.0.1
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Success	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が完了しているか確認してください。

メッセージ	原因/対処
All servers are busy.Check if this command is already run.	既に本コマンドが実行されている可能性があります。確認してください。
Group (%s) is offline.	処理を要求したサーバで、グループが起動しているか確認してください。
Group that specified resource(%s) belongs to is offline.	処理を要求したサーバで、指定したリソースを含むグループが起動しているか確認してください。
Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。
%s %s : Specified resource(%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
%s %s : Specified resource(Category:%s, Keyword:%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
Specified group(%s) does not exist.	指定したグループが存在しません。
This server is not permitted to execute clprexec.	WebManager 接続制限のクライアント IP アドレス一覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが登録されているか確認してください。
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を確認してください。

再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)

clpregctrl 再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン:

```
clpregctrl --get
clpregctrl -g
clpregctrl --clear -t type -r registry
clpregctrl -c -t type -r registry
```

説明 サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

オプション	-g, --get	再起動回数情報を表示します。
	-c, --clear	再起動回数を初期化します。
	-t <i>type</i>	再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプは rc または rm です。
	-r <i>registry</i>	レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名は haltcount です。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	二重起動
	3	オプション不正
	4	構成情報不正
	10～17	内部エラー
	20～22	再起動回数情報取得失敗
	90	メモリアロケート失敗

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行例 再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g
```

```
*****
-----
type      : rc
registry  : haltcount
comment   : halt count
```

```
kind      : int
value     : 0
default   : 0

-----
type      : rm
registry  : haltcount
comment   : halt count
kind      : int
value     : 3
default   : 0

*****
success.(code:0)
#
```

例 1、2 は、再起動回数を初期化します。

例1：グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
success.(code:0)
#
```

例2：モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
success.(code:0)
#
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。 Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
The command is already executed.	コマンドは、既に実行されています。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

リソース使用量を予測する (clpprer コマンド)

clpprer 与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。

コマンドライン:

```
clpprer -i <inputfile> [-o <outputfile>] [-p <number>] [-t <number>] [-l]
```

説明 与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。

オプション

-i <inputfile>	将来の値を求めたいリソースデータを指定します。
-o <outputfile>	予測結果を出力するファイル名を指定します。
-p <number>	予測データ数を指定します。指定がない場合は、30 件の予測データを求めます。
-t <number>	予測データと比較するしきい値を指定します。
-l	[-t] オプションでしきい値の設定を行った場合のみ有効になるオプションです。しきい値を下回った場合を異常と判定します。

戻り値

0	しきい値判定を行わず正常終了した場合
1	異常が発生した場合
2	入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
3	予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
4	しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合
5	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
6	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
7	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合

注意事項 本コマンドは、システム監視リソース (System Resource Agent) のライセンスを登録している場合のみ利用することができます。

オプション `-i` で指定するリソースデータファイルの入力データ数は最大で 500 件となります。リソース使用量の予測にはある程度の入力データ数が必要となります。ただし、入力データ数が多い場合は分析に要する処理時間も長くなるため、入力データ数は 120 件程度を推奨します。また、オプション `-p` に指定可能な出力データ数も最大で 500 件となります。

入力ファイルの時刻データが昇順に並んでいない場合は正しく予測を行うことができません。入力ファイルには昇順に並んでいる時刻データを設定してください。

入力ファイルは CSV 形式で、1 個のデータを [日時,数値] の形で記載します。

また、日時のフォーマットは YYYY/MM/DD hh:mm:ss です。

ファイル例

```
2012/06/14 10:00:00,10.0
2012/06/14 10:01:00,10.5
2012/06/14 10:02:00,11.0
```

実行例 将来の値の予測を簡単な例で説明します。

入力データで異常を検出した場合

入力データの最新の値がしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 2 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 5 を返却します。

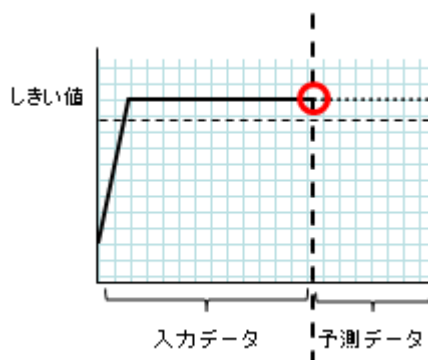


図 入力データで異常を検出

予測データで異常を検出

予測データがしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 3 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 6 を返却します。

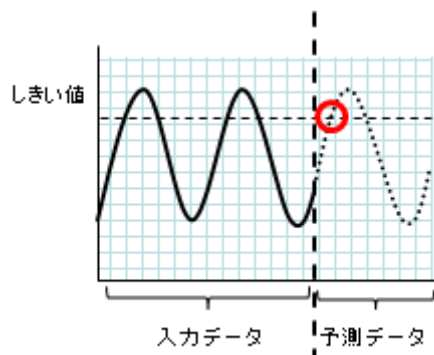


図 予測データで異常を検出

しきい値異常を検出しない

入力データ、予測データともにしきい値を超えなかった場合は、戻り値 4 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 7 を返却します。

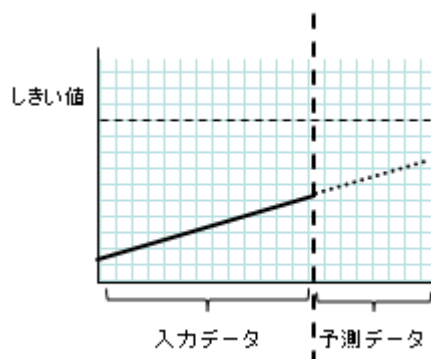


図 しきい値異常を検出しない

-I オプションを利用した場合

-I オプションを利用した場合は、しきい値を下回った場合を異常と判定します。

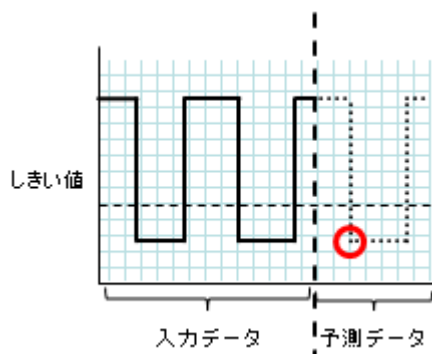


図 -I オプションを利用

メッセージ	原因/対処法
Normal state.	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータはありませんでした。
Detect over threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータを検出しました。
Detect under threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	-l オプションによるしきい値判定の結果、しきい値を下回るデータを検出しました。
License is nothing.	有効な System Resource Agent のライセンスが登録されていません。ライセンスを確認してください。
Inputfile is none.	指定した入力データファイルが存在しません。
Inputfile length error.	指定した入力データファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Output directory does not exist.	出力ファイルで指定されているディレクトリが存在しません。指定したディレクトリが存在するか確認してください。
Outputfile length error.	指定した出力ファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Invalid number of -p.	-p オプションに指定した値が不正です。
Invalid number of -t.	-t オプションに指定した値が不正です。
Not analyze under threshold(not set -t).	-t オプションが指定されていません。-l オプションを使用する場合 -t オプションも指定してください。
File open error [%s]. errno = %s	ファイルオープンに失敗しました。メモリ不足や OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Inputfile is invalid. cols = %s	入力データ数が正しくありません。入力データ数は 2 件以上に設定してください。
Inputfile is invalid. rows = %s	入力データのフォーマットが正しくありません。1 行は 2 列にする必要があります。
Invalid date format. [expected YYYY/MM/DD HH:MM:SS]	入力データの日付が不正なフォーマットになっています。データを確認してください。
Invalid date format. Not sorted in ascending order.	入力データの日時が昇順に並んでいません。データを確認してください。
File read error.	入力データに不正な値が設定されています。データを確認してください。
Too large number of data [%s]. Max number of data is %s.	入力データ数が最大値 (500) を超えています。データ数を減らしてください。
Input number of data is smaller than recommendable number.	入力データ数が分析推奨データ数 (120) より少ないです。 ※分析推奨データが少ない場合でも、分析は行われます。
Internal error.	内部エラーが発生しました。

セクション III リリースノート

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の制限事項や、既知の問題とその回避策について説明します。

- 第 3 章 注意制限事項
- 第 4 章 エラーメッセージ一覧

第 3 章 注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- システム運用後 112
- WebManagerについて 116

システム運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース（アプリケーションリソース、サービスリソース、...）を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中（再活性化 → 最終動作）には、WebManager やコマンドによる以下の操作は行わないでください。

- ◆ クラスタの停止 / サスペンド
- ◆ グループの開始 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて

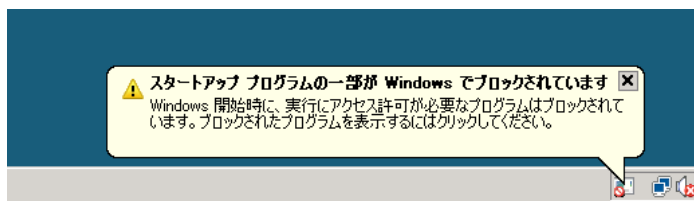
CLUSTERPRO Disk Agent サービスは CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用していません。CLUSTERPRO Disk Agent サービスは起動しないでください。

Windows Server 2008 環境におけるユーザーアカウント制御の影響について

Windows Server 2008 では、既定値でユーザーアカウント制御（User Account Control、以下 UAC と略します）が有効となっています。UAC が有効となっている場合、下記の機能に影響があります。

スタートアッププログラム

ビルトイン Administrator 以外のアカウントでログオンすると、下記の画面が表示され、スタートアップに登録されている CLUSTERPRO のモジュール（clpaltui.exe, clphookstdn.exe）の実行がブロックされます。



ブロックされたモジュールの機能は使用できませんが、クラスタとしての動作に支障はありません。以下に各モジュールの機能概要を示します。

clpaltui.exe

アラートサービスの通報アイコンです。詳細については、『リファレンスガイド』の「第9章 その他の監視設定情報 アラートサービス」を参照してください。

clphookstdn.exe

ログオンユーザが [スタート] メニューからシャットダウンを選択した場合に、警告ダイアログを出力するための機能です。

なお、UAC を無効にしても、ログイン時には上記モジュールは実行されません。

モニタリソース

下記のモニタリソースに影響があります。

Oracle 監視リソース

Oracle 監視リソースにおいて「認証方式」を [OS 認証] とした場合、監視ユーザに Administrators グループ以外のユーザが設定されていると、Oracle 監視の処理は失敗します。

「認証方式」に [OS 認証] を設定する場合は、「監視ユーザ」に設定するユーザは Administrators グループに属するようにしてください。

互換コマンド

下記の互換コマンドに影響があります。

armload.exe

上記コマンドの /U オプションで、ビルトイン Administrator 以外のユーザを指定すると、コマンドの実行に失敗します。

Windows Server 2008 環境におけるアプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について

CLUSTERPRO のアプリケーションリソース・スクリプトリソースから起動したプロセスはセッション 0 で実行されるため、GUI を持つプロセスを起動した場合、Windows Server 2008 では「対話型サービス ダイアログの検出」ポップアップが表示され、このポップアップで「メッセージを表示する」を選択しないと GUI が表示されません。

ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について

NIC が二重化されている環境の場合、OS 起動時の NIC の初期化に時間がかかることがあります。初期化が完了する前にクラスタが起動すると、カーネルモード LAN ハートビートリソース (lankhb) の起動に失敗することがあります。この場合、NIC の初期化が完了しても、カーネルモード LAN ハートビートリソースの状態は正常に戻りません。この状態から復旧させるためには、クラスタをサスペンドした後、クラスタをリジュームする必要があります。

また、上記の現象を回避するためにネットワーク初期化完了待ち時間の設定、または ARMDELAY コマンドでクラスタの起動を遅らせることを推奨します。

- ◆ ネットワーク初期化完了待ち時間
クラスタを構成する全サーバで共通の設定です。設定した時間に達していない場合でも、ネットワークの初期化が完了すると、クラスタの起動を開始します。
- ◆ ARMDELAY コマンド
クラスタを構成する各サーバの個別の設定です。設定した時間に達していない場合、ネットワークの初期化が完了しても、クラスタの起動を開始しません。

ネットワーク初期化完了待ち時間、ARMDELAY コマンドの詳細については、『リファレンスガイド』を参照してください。

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントは [ローカル システム アカウント] に設定されています。このログオンアカウントの設定を変更すると、クラスタとして正しく動作しない可能性があります。

CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について

プロセスを監視するようなソフトウェアにより、CLUSTERPRO の常駐プロセスを監視すること自体には問題はありませんが、プロセスの異常終了時などにプロセスの再起動などの回復動作は行わないでください。

JVM 監視リソースについて

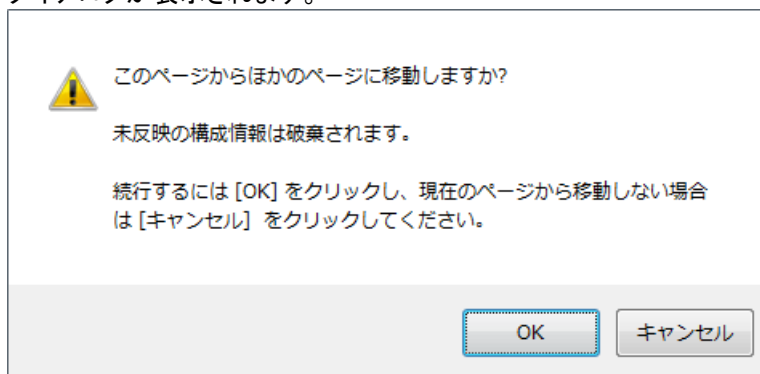
- ◆ 監視対象の Java VM を再起動する場合は JVM 監視リソースをサスペンドするか、クラスタ停止を行った後に行ってください。
- ◆ 設定内容を変更時にクラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。

システム監視リソースについて

- ◆ 設定内容を変更時にクラスタサスペンドを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- ◆ 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイミングが日付 / 時刻変更後の最初の 1 回だけずれてしまいます。以下のようなことが発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。
- ◆ ディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は 26 台です。

WebManager について

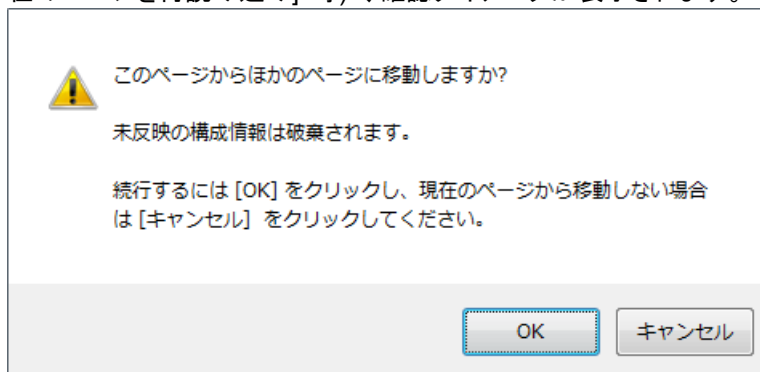
- ◆ WebManager で表示される内容は必ずしも最新の状態を示しているわけではありません。最新の情報を取得したい場合、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を取得してください。
- ◆ WebManager が情報を取得している間にサーバダウンが発生すると、情報の取得に失敗し、一部オブジェクトが正しく表示されない場合があります。次回の自動更新まで待つか、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を再取得してください。
- ◆ ログ収集は、複数の WebManager から同時に実行できません。
- ◆ 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間がかかる場合があります。
- ◆ マウスカーソルが処理中を表す腕時計や砂時計になっている状態で、ブラウザ外にカーソルを移動すると、処理中であってもカーソルが矢印の状態に戻ってしまうことがあります。
- ◆ Proxy サーバを経由する場合は、WebManager のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- ◆ Reverse Proxy サーバを経由する場合、WebManager は正常に動作しません。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合は、ブラウザを終了し、Java のキャッシュをクリアしてからブラウザを再起動してください。
- ◆ Web ブラウザを終了すると (メニューの [終了] やウィンドウフレームの [X] 等)、確認ダイアログが表示されます。



設定を続行する場合は [キャンセル] を選択してください。

注: JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

- ◆ Web ブラウザをリロードすると（メニューの [最新の情報に更新] やツールバーの [現在のページを再読み込み] 等）、確認ダイアログが表示されます。



設定を続行する場合は [キャンセル] を選択してください。

注: JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

第 4 章 エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- イベントログ、アラートメッセージ..... 120

イベントログ、アラートメッセージ

イベントログやアラートに出力されるメッセージは、CLUSTERPRO X と共通になっています。これらのメッセージの詳細については、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を参照してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 独自メッセージは以下の通りです。

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	Alert	Eventlog	Userlog
sss	エラー	20004	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●
sss	エラー	20005	サーバ名の取得が失敗しました。	サーバ名の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●
sss	情報	20006	サーバ名が更新されました。	サーバ名が更新されました。	—	●		●
sss	エラー	20007	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●		●
sss	情報	20008	コンフィグファイルが更新されました。	コンフィグファイルが更新されました。	—			●
sss	エラー	20009	コンフィグファイルの内容が不正です。	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。			●
sss	エラー	20010	%1サービスが開始できませんでした。	%1サービスが開始できませんでした。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●		●
sss	情報	20012	%1サービスが開始されました。	%1サービスが開始されました。	—			●

モジュール タイプ	イベ ント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	Alert	Eventlog	Userlog
sss	情報	20013	%1サービスが停止されました。	%1サービスが停止されました。	—			●
sss	情報	20014	LANボードの二重化モジュールが起動されました。	LANボードの二重化モジュールが起動されました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。			●
sss	エラー	20015	LANボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	LANボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	—	●		●
ncctl	エラー	20101	LANボード%1の異常を検出しました。	LANボード%1の異常を検出しました。	待機中のLANボードの設定が適切であるかどうか確認してください。	●		●
ncctl	警告	20102	LANボード%1をLANボード%2に切り替えます。	LANボード%1をLANボード%2に切り替えます。	—	●		●
ncctl	エラー	20103	LANボード%1の操作に失敗しました。	LANボード%1の操作に失敗しました。	—	●		●

付録

- 付録 A 索引

付録 A 索引

C

CPUクロックを制御, 97

D

Disk Agent サービス, 112

J

JVM監視リソース, 114

W

WebManager, 16, 116
WebManager の画面, 15, 18
WebManager の起動, 16, 17
WebManager を手動で停止/開始, 15, 48
WebManager を利用したくない場合, 48

あ

アラートの検索, 19, 21, 45, 46
アラートビューの各フィールド, 45
アラートビューの操作, 46
アラートメッセージ, 120
アラートを確認, 15, 20, 21, 45, 89

い

イベントログ, 119, 120

か

回復動作中の操作制限, 112
各オブジェクトの状態を確認, 15, 19, 29
画面レイアウトを変更, 19, 24, 27

き

緊急OSシャットダウン時の情報採取, 70

く

クラスタサーバに処理を要求, 99
グループリソースを制御, 53, 95
グループを操作, 53, 64

こ

構成情報の反映, 53, 72
構成情報バックアップ, 53, 72
構成情報をバックアップ, 76

構成情報を反映するクラスタ生成コマンド, 72
コマンド, 53, 54
コマンドラインから操作, 53, 54

さ

サーバ全体の状態を確認, 43
サーバをシャットダウン, 53, 63
サービスの操作, 27
サービスを操作, 53, 59, 63
再起動回数を制御, 103

し

時刻情報を確認, 19, 25
実行形式ファイル, 112
実行できる操作, 29
使用制限の種類, 48
状態を表示, 53, 56
情報を最新に更新, 19, 24

す

スクリプトファイル, 112

せ

接続制限, 15, 48
全体の詳細情報をリスト表示, 39

そ

操作制限, 15, 48

た

タイプを指定したログの収集, 68
タイムアウトを一時調整, 78

つ

ツリービュー, 15, 19, 29

と

動作モード, 19, 20
特定グループリソースのオブジェクト, 33
特定サーバの状態を確認, 43

め

メイン画面, 18
メッセージを出力, 89

も

モニタ全体の状態を確認, 44
モニタリソースのオブジェクト, 36
モニタリソースを制御, 53, 91

ら

ライセンスを確認, 27

り

リストビュー, 15, 20, 39
リソース使用量を予測, 53, 105

ろ

ログファイルの出力先, 70
ログレベル/サイズを変更, 81
ログを収集, 19, 22, 53, 67